

平成 26 年度やんばる観光連携推進事業

資料編

平成 27 年 3 月

北部広域市町村圏事務組合

目次

1	連携の仕組みづくり	1
1-1	やんばる観光連携推進研究会 会議概要	1
①	研究会メンバー一覧 (メンバー38人及び事務局)	1
②	事業内容説明会	3
③	市町村・関連団体ヒアリング	4
④	第1回研究会議事録及び会議概要	16
⑤	第2回研究会会議概要	20
⑥	第3回研究会会議概要	21
⑦	研究会メンバーアンケート	22
1-2	連携プロジェクト実証	23
①	相互視察行程	23
②	企画会議経緯	31
③	モニターツアー行程	39
④	モニターツアー実施の流れ	40
⑤	モニター実施体制	41
⑥	モニターツアー実施中の緊急連絡体制	42
⑦	モニターツアーパンフ	43
⑧	モニター一覧	51
⑨	モニターアンケート調査	52
⑩	モニターツアーアンケート調査結果の分析	98
⑪	モニターアンケート票 (大人の民泊モニター向けアンケート)	100
⑫	受け入れ民家アンケート調査	111
⑬	受け入れ民家アンケート調査結果の分析	119
⑭	受け入れ民家アンケート票	120
⑮	受け入れ事務局アンケート調査	122
⑯	受け入れ事務局アンケート調査結果の分析	128
⑰	受け入れ事務局アンケート票 (大人の民泊、事務局側アンケート)	129
⑱	モニターツアーの成果と課題	132
2	情報発信の仕組みづくり	134
2-1	情報サイトの充実強化	134
①	沖縄北部観光情報コミュニケーションサイト リニューアル	134
②	フェイスブック開設	134
③	アクセス実績	136
2-2	情報拠点の充実強化	148
①	やんばる観光案内コーナーの充実	148
②	利用実績 2013年12月3日～2015年3月20日	150
2-3	ガイドマップ・マップ・CD制作・スタンプラリー実施	151

①	ドライブ本	151
②	ドライブマップ（「多言語版」製作）	158
③	ドライブ CD.....	160
④	製作物の配布先及び配布数。	166
⑤	観光プロモーション映像制作.....	167
⑥	スタンプラリー（やんばる・ほうばるスタンプラリー）	170
3	観光プロモーション.....	186
①	那覇空港ウェルカムホール「やんばる観光フェア」出展.....	186
②	沖縄EXPO in TOKYO出展	205
4	ニーズ調査.....	214
4-1	観光動態調査.....	214
①	混雑統計調査とは.....	214
②	関所の設定（13か所）	217
5	協議会議事録	221
①	第1回協議会議事録.....	221
②	第2回協議会議事録.....	226
③	第3回協議会議事録.....	233
	平成26年度 委員名簿.....	237

1 連携の仕組みづくり

1-1 やんばる観光連携推進研究会 会議概要

①研究会メンバー一覧（メンバー38人及び事務局）

【12市町村役場】(24人)

	市町村	氏名	所属・役職
1	名護市	當山 賢	商工観光課 課長
2		大城 磯子	〃 係長
3	国頭村	知花 靖	企画商工観光課 課長
4		前田 浩也	〃 係長
5	大宜味村	山城 均	企画観光課 課長
6		藤田 元也	〃 係長
7	東村	金城 幸人	企画観光課 課長
8		仲嶺 真文	〃 課長補佐
9	今帰仁村	島袋 輝也	経済課 課長
10		上原 一也	〃 係長
11	本部町	宮城 建	商工観光課 課長
12		謝花 祐作	〃 班長
13	恩納村	長浜 保治	商工観光課 課長
14		野原 みちよ	〃 係長
15	宜野座村	金城 勉	観光商工課 課長
16		新里 俊文	〃 主事
17	金武町	安富祖 勸	産業振興課 課長
18		伊芸 勲	〃 主幹
19	伊江村	東江 民雄	商工観光課 課長
20		島袋 祐次	〃 係長
21	伊平屋村	上江洲 清彦	総合推進室 室長
22		上原 拓海	〃 主事
23	伊是名村	銘苺 正康	商工観光課 課長
24		東江 隆路	〃 係長

【関連団体】(14人)

	市町村	氏名	所属・役職
25	名護市	比嘉 重文	公益財団法人 名護市観光協会 事務局長
26	国頭村	平良 勇	国頭村観光物産株式会社 支配人
27	大宜味村	稲福 元子	NPO 法人 大宜味まるごとツーリズム協会 事務局長

28	東村	小田 晃久	NPO 法人 東村観光推進協議会 事務局長
29	今帰仁村	又吉 演	今帰仁村観光協会 事務局長
30	本部町	嘉数 剛	一般財団法人 本部町観光協会 事務局長
31	恩納村	名城 一幸	NPO 法人 ふれあい ONNA ネット 課長
32	宜野座村	仲間 赴人	宜野座村観光推進協議会 事務局長
33	金武町	山川 宗仁	金武町観光協会 執行理事
34	伊江村	金城 盛和	一般財団法人 伊江島観光協会 会長
35	伊是名村	上間 美卓	一般財団法人 いぜな島観光協会 次長
36	一般財団法人	川満 修二	水族館事業部 水族館事業チーム チームリーダー
37	美ら島財団	満名 誠	本部 経営企画課 事業開発係
38	やんばる観光 推進協議会	川添 博明	株式会社北部観光バス 専務取締役

【事務局／北部広域市町村圏事務組合】(4 人)

	氏名	所属・役職
	比嘉 克雄	事務局長
	宮里 幹成	広域振興課 課長
	比嘉 和志	広域振興課 広域事業係 係長
	崎山 ゆかり	広域振興課 広域事業係 主査

【事務局／受注スタッフ】(8 人)

	氏名	所属・役職
	玉沖 仁美	受注スタッフ アドバイザー((株)紡 代表取締役)
	照屋 忠彦	受注スタッフ((株)国建)
	奥原 拓	受注スタッフ((株)国建)
	新嘉喜 長健	受注スタッフ((株)国建)
	宮平 江美子	受注スタッフ((株)国建)
	金川 達郎	受注スタッフ((株)国建)
	末吉 司	受注スタッフ(NPO 法人 HiCO)
	大城 義友	受注スタッフ(NPO 法人 HiCO)

②事業内容説明会

(開催概要)

開催時期	平成 26 年 8 月 26 日 (火) 午後 1 時 30 分～午後 3 時
開催場所	北部会館
参加対象	研究会メンバー (各市町村役場、各団体)
内容	①事業内容に関する意見交換 ②広域連携体制の役割や形態について
開催方法	事務局説明及び意見交換



開催写真



開催写真

(資料)

これまでの成果	今後の課題
<p>エリアコーディネーターの配置、ワークショップの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 観光関係者の情報交換、課題の共有ができる場が作られた。 ● 連携プロジェクトの検討をとおして観光素材やアイデアが共有された。 <p>情報収集・発信の仕組みづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 参加型のキャンペーンで、参加者相互、地域と観光客双方のコミュニケーションの仕組みが実証された。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 具体的な連携プロジェクトの実践が必要である。 ● 成功事例を作り、自主的な連携の動きを促す必要がある。 <ul style="list-style-type: none"> ● 投稿者を拡大して情報の充実を図る必要がある。 ● イベントとの連携で相乗効果を上げる方策も考えられる。 ⇒今後の情報発信の事業展開に活かしていく。
<p>情報サイトの制作</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 旬な情報がアップされる動きのあるサイトが作られた。 ● イベントなどが広報できる場が作られた。 ● 閲覧者がサイト内で予約できる仕組みが作られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 広報などでアクセス数を増やす必要がある。 ● 地元関係機関とのリンクやメディアを活用した広報の協力体制を築くことが必要である。 ● ターゲットを絞り込んだ効果的な広報が必要である。 ● 推奨コースや飲食、土産などの情報を組み合わせて周遊・滞在・消費を促す情報の掲載が必要である。
<p>情報拠点の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ● やんばるの観光情報が集約された場を設けることで、効率的に発信できる仕組みが作られた。 ● 対面式とすることで着地側で観光客の多様なニーズに丁寧に応えられる仕組みが作られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 観光客への周知、各地の観光地との連携により認知度を高め、利用を促進する必要がある。 ● 推奨コースや飲食、土産などの情報を組み合わせて周遊・滞在・消費を促す情報提供が必要である。 ● 那覇近辺では、レンタカー利用者に偏らないよう、設置場所を検討する必要がある。
<p>観光プロモーションの展開方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 観光フェア等では、これまで各地域が単体で別々に出展していたが、やんばるを一つとして集約し、発信できる仕組みが作られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 具体的な商品のセールスを行う方向で出展を検討する。 ● やんばるの統一感のあるパッケージデザインの制作など、やんばるを売り込む効果的な方策を考える必要がある。
<p>ニーズ把握の展開方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「やんばる」のイメージやニーズに関して、県民と観光客、ピギナーとリピーターの傾向を把握できた。 ● 観光客にとってやんばるの認知度はまだ低いが、情報発信することで周遊・滞在・消費を促す可能性が示唆された。 	<ul style="list-style-type: none"> ● やんばるでの観光客の行動パターンを把握し、周遊・滞在・消費を促進するための戦略に活かす必要がある。 ● 沖縄に住んでいる人、来ている人を対象としたアンケートのみならず、全国的な市場を対象とする必要がある。 ● インバウンドに関する動向を把握する必要がある。

③市町村・関連団体ヒアリング

(開催概要)

目的	連携体制の在り方について研究会・協議会で議論し進めて行く上で、事前に各市町村の意見を調査・集約する必要がある、アンケート及びヒアリングを実施。
実施時期	平成26年9月12日～10月17日（訪問につき1時間程度）
実施場所	各市町村役場、各団体事務所
実施対象	研究会メンバー（各市町村役場、各団体）
内 容	事前アンケートを配布・回収した内容をヒアリングで共有
ヒアリング内容	①研究会の進め方について ②北部12市町村（やんばる広域圏）の連携で求められること ③やんばる広域観光連携体制の組織形態（選択問題） ④事務局の運営に係る財源について

(アンケート・ヒアリング先/内容)

実施日	市町村・観光協会	役職・氏名
9月12日	名護市	商工観光課 當山課長、大城係長
	名護市観光協会	中村係長、宮城コーディネーター
9月18日	今帰仁村	経済課島袋課長、上原係長
	今帰仁村観光協会	又吉事務局長
	美ら島財団	経営企画課 西銘課長、川満リーダー、満名
9月19日	本部町	商工観光課 謝花班長
	本部町観光協会	嘉数事務局長
9月24日	宜野座村観光推進協議会	仲間事務局長
	東村	企画観光課 金城課長、仲嶺課長補佐
	東村観光推進協議会	小田事務局長
	国頭村	企画商工観光課 前田係長
9月25日	恩納村商工会	平田事務局長
	恩納村	商工観光課 長浜課長、野原係長
	金武町	産業振興課 安富祖主任
9月26日	大宜味村	企画観光課 藤田主任
	大宜味まるごとツーリズム協会	宮城理事長、稲福事務局長
	金武町観光協会	山川執行理事
	宜野座村	観光商工課 金城課長、新里主事
9月29日	伊江村	商工観光課 東江課長、島袋課長補佐
10月2日	伊是名村	観光商工課 銘刈課長、東江係長
	いげな島観光協会	上間次長
10月17日	伊平屋村	総合推進室 上江洲室長

(アンケート・ヒアリング内容のまとめ)

訪問団体	名護市商工観光課	名護市観光協会	今帰仁村経済課
記入者	大城 磯子係長	仲村 和樹係長	上原一也係長
参加者	名護市：富山課長、大城係長 広域：宮里課長、崎山主任 国建：照屋、金川	観光協会：仲村係長、宮城コーディネーター 国建：照屋、金川	今帰仁村：島袋課長、上原係長 広域：崎山主任 国建：照屋、金川
訪問日	9月12日 午後2時	9月12日 午後3時30分	9月18日 午後1時30分～
Q1 研究会の進め方	①各市町村の連携の取りやすい地域が分科会を立ち上げ、商品開発を行う。 ②研究会はその個々の商品開発案について、事業認定、予算の確保などの機能を保有するようにする。 もしくは、事業認定を広域が行うようにする。 これらの流れを作ることで、やれることを具体化し、各市町村からのボトムアップが出てくる企画を事業認定するというモデルケースを作り上げる。 ③北部広域の民間観光事業社(やんばる会)の研究会への参加	観光協会部会はエリア別、もしくはテーマによるエリア別を希望。 事業について、今年度は東海岸であるが、平成28年までの計画運営について、部会、研究会で話し合い、東海岸の次のモデル地域を検討すべき。	平成26年度研究会の事務局は、北部広域で担うことになるのか。仮に12市町村の観光部局、その観光協会等で事務局お担うことになる場合は、難しいと考えます。 特に離島まで含まれている点からも、12市町村をひとつくりにして、連携体制づくりを考えるとするのは難しいのではないかと思います。 まず、初めに「国頭・東・大宜味」「本部、今帰仁村、伊江村、伊是名村、伊平屋村」「金武町・宜野座村・恩納村」といった類似する環境の中でチーム分けをし、3ブロック+名護市(名護市はそれぞれのブロックと係る)に分けて話し合いを進め、その結果をすり合わせしていき、研究会の意見として結びつけていく方法が良いのではないかと、思います。 将来的には「やんばる会」へ一元化した方が良いのでは？
Q2 連携で求められること	・北部広域の観光従事者が、それぞれ個々の商品開発し易い環境を整えること。 ①広域連絡会義の開催 各市町村のイベント情報を共有すべき。(イベントはどうしても同じものになり易く、情報共有出来れば、市町村間でアドバイスなどがしやすくなる) ②予算の確保(国等) やりたい人が使用し易い予算 ③観光事業者向けの事態調査と、観光客向けマーケティング調査 市町村をまたぐ広域マーケティング ④プロモーション活動の支援(商品開発者が一番商品内容を分かっており、その意思を反映させるためにもプロモーション出来る環境を整える) その他：情報発信として「うみちゅら」許田道の駅で人を置くことは非常に良いことであり、続けてほしいが、物産センターと案内コーナーでは、観光客の群がりに大きな差がある。そのためこの差は課題であり、改善する必要がある。	可能であれば全て希望。(観光施策企画・立案、情報発信、プロモーション、マーケティング、イベント業務。)マーケティングが出来ないと、数々の裏付けがないため、説得力に欠け、戦略が立てられない。そのためマーケティングや調査などの業務が必要。	一般的な情報発信、一体的なプロモーションが重要になってくると思います。 海洋博公園の美ら海水族館には多くの観光客が訪れているものの、まだまだ緑豊かで、ありのままの自然が残っておりやんばるの魅力が十分に発信できないように思われます。 やんばる全体を一つの観光資源として発信し、沖縄にきたら必ずやんばるに立ち寄りたくするような仕掛けづくりをしていくことは、大切だと思います。 一つの例として沖縄美ら島財団の「元氣プロジェクト」は良い例だと思います。 本村の今帰仁グスクまつりも、沖縄やんばるの花めぐりの一つとして連携させてもらっています。
Q3 連携の組織体制	A案 北部広域内に設置 現実性、即効性で考えるとA案が妥当。 中期計画を立て、A案以外の方法に移行した方がよいのであれば、研究会の議題として持つ。 観光コンテンツを市町村単位で展開するには、限界があるため、まずは、各市町村が無理なく連携出来るグループから商品開発を促すために調整組織としての機能を持つ。 観光コンテンツを各市町村で持つのは難しく、広域は12市町村へ情報を発信し、情報入手できる立場にあり、マネージメントが可能であるため、広域に設置するのが妥当。	D・E案 OCVB、合同庁舎へ設置 OCVBは那覇中心で考えており、ホテル、観光客は北部に流れているにも係らず、なぜ北部には何も無いのか？ 予算についても、那覇で打合せをやる等、距離的な問題もあることや、北部でやらないため北部の事情が分かかってもらえない。そのため北部であれば事情も分かり、北部から直接県に物が言え、北部への設置を要望。 要はなんでも那覇であり、人事育成についてもホテルは名護、恩納、本部にあるが、インバウンドの資格は、名護では取れないので、名護で取れば便利。	D案 OCVBへ設置 沖縄県では、沖縄観光を主要政策として取り組んでいる中であり、沖縄県の政策を体系的に進めて行く方法として、やんばる構成市町村との連携を図ることは、県の観光政策をうまく実現するためにも効果的だと思います。 また、各市町村それぞれが観光政策に力を入れて行かなければならない状況にあると思いますが、何をどう取り組み効果的な成果が出るのかが大きな課題となっていると思います。 その手法、ノウハウなど支援を頂けたら非常に心強く思います。
Q4 事務局の財源	人件費等：市町村負担 事業費等：国予算 北部振興関係の予算を活用できる体制	D、E案で出来なければ、A案でもかと思われ。	一括交付金事業等を活用し、上記と同じく沖縄県への支援を頂くことが出来ないでしょうか。広域市町村圏事務組合で負担金などを出し合っていく場合には、その運営の方法としてどの市町村にも同じくメリットがあるよう、バランス良く事業を遂行していかなければならないと思いますが、長い目で見た場合、事務局の問題もありますし、難しいのではないかと思います。
その他			北部広域連携推進業は「かりゆし会」と同じようなプロジェクトであり、それぞれのプロジェクトがあり、分散しているように見える。同じようなプロジェクトが多いため、どこに軸足を置いたら良いのかが分からない。 今帰仁村としては、やんばるの農業を販売したくグリーンツーリズムを検討しており、伊是名と共に、世界農業遺産への登録を目指している。また、古宇利島には百万人/年の観光客が来ているが、市街地に入っていないため、観光客を引き込む着地型観光などを検討中。 名護のゆがる・インヤリゾネックスなどは、イスラム圏からの観光客が多い。

訪問団体	今帰仁村観光協会	本部町役場商工観光課	本部町観光協会
記入者	又吉事務局長	謝花班長	嘉数事務局長
参加者	観光協会：又吉事務局長 広域：崎山主任 国建：照屋、金川	役場：謝花班長 広域：崎山主任 国建：照屋所長、金川	観光協会：嘉数事務局長 国建：照屋所長、金川
訪問日	9月18日 午後3時40分～	9月19日 午前10時30分～	9月19日 午後1時30分～
Q1 研究会の進め方	プロジェクトチームは、スタンダラーにしてもプロモーションにしても、エリアが強く関係するので、エリア別に分けて欲しいです。また、県が現場を見ずに予算を付けるので、現場の欲しい予算とミスマッチがある。そのため、現場・地域のニーズ吸い上げを北部広域にお願いしたい。	広範囲やメンバーの多い会議だと意見がまとまりにくいのではないのでしょうか。エリア分けやジャンル分けを行いグループ毎に会議を進める方法もありだと思います。	図を見る限り、エリア分けをすると良いと思うが、実行が誰が行うのか？各観光協等の位置立場をはっきりさせる(何が出来て何ができないのか)北部広域なので各市町村単位の話よりエリア分けをして、計画して各市町村で何が出来るかの落とし込みをする方が良い。 ・道の駅などの物産物販に関しての対応団体も検討が必要ではなのでは？
Q2 連携で求められること	大枠での連携は当然必要ですが、地域の実情が違うため、実務レベルでは広域圏内のエリアもしくはブロック的なネットワークを形成する必要があると考えます。エリア別ブロック別ネットワークを基盤として、施策の企画立案やプロモーションやマーケティングやイベントを行えば良いと思います。競わせて面白いように予算を付けるやり方の方が良い。	既に市町村では、観光施策の企画・立案及び予算化がされているため、広域で取り組む内容としては、情報発信やプロモーションに重点を置いてもらえたらと思います。 (市町村単位では発信力が弱い)	12市長村には独自にプロモーションや計画を行っているので、広域のプロモーションはそれに連動し、エリア毎のプロモーションを検討し、12市町村から3・4・5ブロック【エリア】に分けて行う、一体的なプロモーションなら良いかと思いません。 ・やんばる？の定義もバラバラです(例：沖縄美ら島財団元気プロジェクト内(恩納村、金武町、宜野座村)では、含まれていない。 名護以北、本部半島、名護以南東、名護以南西海岸、西海岸(名護二見、東村、国頭村)、離島等のマーケティングが違うと思います。
Q3 連携の組織体制	E案 沖縄県北部合同庁舎に、文化観光スポーツ部から出先を設置した上で、さらにコンベンションビュローの事務所を置くのが適切と思われる。 県は、県外海外事務所を設置し、ビュローも県外海外事務所を設置している。それは主にプロモーションを担っているが、観光はプロモーションだけではなく受け入れ体制の整備という両輪が必要であり、プロモーションも非常に大事だが、更に質の向上にも注力していくべきと考えます。 北部各地域観光協会が企画提案競争し、ビュローがその体制を事務局的にまとめ、北部広域市町村圏事務組合が各市町村行政からの企画提案をまとめたり競争を促したりし、最終的に ・ビュロー北部事務所(観光協会をまとめ)、 ・北部広域市町村圏事務組合(北部12市町村をまとめ)、 ・県の三者で北部域の中長期戦略をまとめたり、上がってきた企画提案を政策に反映させたりしては如何でしょうか。	E案 県の出先機関が北部にあると、県としても北部の状況を把握しやすいと思います。 また、北部連携でまとめた意見を県へ提案し易くなり、市町村単位でも事業提案がし易くなる。	D・E・F案 北部12市町村は観光地になっており、県の指針であるロードマップによる一兆円産業を生み出すためには、県の観光部局が必要だと思います。 ・又、プロモーションを行う団体として、OCVBの職員と各ブロックの担当の各観光協会兼任の職員と名桜大学生などで新たに事務局をつくる。
Q4 事務局の財源	現在、ビュローが獲得している予算から、ビュロー北部事務所(仮)にある程度の予算権限を与える部分と、各市町村の負担金を北部広域市町村圏事務組合に集約する部分との、大きく二本柱が良いのではないのでしょうか。	各市町村から負担金を出し合い運営を行う。 負担金の算出方法については、均等ではなく人口割りや事業所数等に応じて算出してはどうか。	①OCVB ②北部広域 ③自主財源(指定管理等) ④名桜大学(研究機関として補助)
その他	県は観光に対して力の入れ方を大分、下げている様子である。沖縄の観光は、首里城、美ら海水族館なので、ビュローに回す大金を少し回して欲しい。 また、ビュローは観光だけでなく、本部、名護、今帰仁で発生する赤土対策を一緒になって取り組んで欲しい。 本来ビュローはホテルの意見を聞いて、対応する機関だったが、今は担当が内容を決め、ホテルにやらせる形となり、本来のニーズを吸い上げる形ではなくなってきている。	国・県からの管轄違いで開催される観光プロジェクトが多数ある中、市町村も観光プロジェクトのかけもちを行っている。 ・本部港にクルーズ船寄港にあたり、本部港クルーズ推進協議会が発足。協議会を観光協会、商工会、美ら島財団、本部町役場とし、観光協会、商工会、本部町役場で推進している。 ・10万トンクラスを留めるための岸壁工事を検討中だが、村としての意思が不明 先日、欧州より30人～50人乗りの高級客船が寄港したが、目的地が国頭村での森林浴及び名護市でのイオンでの買い物であったため、現状本部町は寄港だけでお金を落とす仕組みが出来ていないということも影響があると思われる。	今の組織では、国、県、広域の縦の流れが見えないため、見える組織にしてほしい。 ・国頭・東・大宜味のヤンバクに加え、今帰仁村もヤンバクに参加している。 ・広域プロモーションでは費用が市町村では出ないため、広域は必要。 ・北部広域の考えが無いのか、前回の打合せでは、説明不十分すぎる。協会は説明が欲しいのであり、北部広域側の説明を求めてきたら、という考え方を改めるべき。広域からの歩み寄りが無ければ、物事が進まない。 ・北部広域として、地域をどうしたいのかの案が欲しい。 ・12市町村全体では対応が難しいため、チーム毎に分かれての対応が良い。また、12市町村での広域連携なのに所管が無いのは、おかしい。 ・動態調査については、宿泊先からの動線が分かればなお良い。

訪問団体	国頭村企画商工観光課	大宜味村企画観光課、おおきみまるごとツーリズム協会	東村企画観光課
記入者	前田係長	藤田係長	仲嶺課長補佐
参加者	役場：前田係長 北部広域：崎山主査 国建：照屋、金川	役場：藤田係長、まるツ：宮城理事長、稲福事務局長 北部広域：崎山主査 国建：照屋、金川	役場：金城課長、仲嶺課長補佐 北部広域：崎山主査 国建：照屋、金川
訪問日	9月24日 午後5時00分～	9月26日 午前10時30分～	9月24日 午後1時30分～
Q1 研究会の進め方	市町村担当課と観光協会や関連団体で小規模で話し合いの場を持たせ、活発な意見が出て連携体制作りのイメージがつかみやすくなると思う。大人数の会議は意見が言いづらく、細かく掘り上げることが出来ない。日程調整をまめに行き、声かけし、エリア分けを行い、小規模会議を増やす。東海岸プロジェクトチームはそうあって欲しい。	実施体制は官？民？合同？様々な意見がございますが、現在、やんばる交流連絡推進協議会という観光協会的な役割を示す国頭、大宜味、東三村の連携実施団体も存続しており、行政からの負担金で運営していく方針が検討されております。近年、連携というキーワードで多くの組織が創設され、逆に複雑になっているのではないかと危惧しているところですが、広域すぎる組織も本当の意味での連携が図れるのか心配です。	沖縄21世紀ビジョン実行計画の、北部圏域の観光リゾート産業の振興等を計画している。県の取組と連携を図り、県担当部署も研究会等に追加し、北部の事情・状況も理解してもらいたい。 OCVBもオブザーバーとして入れる。
Q2 連携で求められること	北部12市町村のツアー商品をいくつも用意する。食、観光地、伝統芸能を含め、いろんなパターンを用意しお客様の選択肢を増やす。整備に時間がかかりますが、今後必要と思います。企画、立案、マーケティングが必要です。るぶるやんばる北部版を作成する際に市場調査を行い、市町村名は知らないがやんばるなら知っている人が県外で多かったので、やんばるブランドを活かし、やんばるの旅(北部12市町村を渡る旅)で3泊4日～5泊6日のツアー商品を作り、北部観光案内所を設立し販売予約を実施。北部12市町村から負担金を支払い運営する。	私事ですが、北部12市町村にどれだけの観光メニュー、組織があるのか実際わかっておりませんでした。ですので、名護の道の駅で実証事業として創設された観光案内所のパンフレット数を見た時は驚いた次第です。広域での連携の難しいところであると思われすが、具体的にどこまで連携するかがカギとなるのではないのでしょうか？これだけ広域な連携のため、昨年実施されたHPやキャラバンなど設問の「例：」が適切だと思います。 情報発信も良いけど、ハード面としての援助をお願いしたい。修学旅行の移動手段としてバスを利用しているが、中南部に比べ遠地であるための地理的不利やガソリンの高騰で移動コストが上がっているため、バスの費用を広域、北部振興事業で負担できないものだろうか？	一体的な情報発信(るぶる等、全国的な観光雑誌に北部圏域の情報を掲載)、飛行機の機内紙などにも、イベント情報を共有し、情報発信を行う。
Q3 連携の組織体制	B案 12市町村負担金を考えるとA案がスムーズかと思いますが、旅行者と契約するには法人格をもつ団体なのでB案です。 A案：北部広域に B案：新たな組織 C案：既存の民間団体 D案：OCVB北部支局 E案：北部合同庁舎 F案：その他	D案 OCVBの会議は中南部にて主に開催しており、北部での会議はあまりない。離島、やんばるにとって、中南部は遠い。 北部の実態を理解して頂きたい。	D案 沖縄県の21世紀ビジョン(基本施策3-(2)世界水準の観光リゾートの形成)でも基本施策の目的で、国際的な沖縄観光ブランドの確立、観光客の受入体制の整備等沖縄県も積極的に観光推進を目指している。県が中心となり北部圏域に観光客に御誘致促進を推進し、北部各市町村(観光推進協議会等)との連携を図る。
Q4 事務局の財源	12市町村からの負担金です。もっと観光に力入れましょう。	OCVB案だと自治体の負担となるのか？また、観光協会としては、会費制でも見返りがあれば、払う価値はあり、OCVBにおいては、見返りがあるため、会費を払う価値があると判断している。	沖縄県及びやんばる広域での連携を図り、県・関係市町村からの財源を確保する。県にも情報を入れ、人・金が確保できるようにしたい。
その他	研究会については、県も含め、民間の旅行会社含めた形でオブザーバーとして入れることに賛成。 ワンストップ窓口については、最終的なゴールであるが、今の段階では出来ないで、徐々に各拠点を置き、ネットワーク構築後最終的なゴールとして位置づける。 ゆいゆい国頭では着地型商品の販売を行っているモデル地域。道の駅内の観光協会でエィサー体験、定置網体験等を販売し、登山アドバイザーの予約も可能。また、大型客船については3年前にバシフィックピーナスと提携し、沖に停泊し、国頭を案内した実績あり。世界自然遺産については、やんばる3村で連携し、とりあえずは国立公園を目指す方向である。	民泊の利用人数：11000人/年の実績あり。北部広域に求めることとして、地域の活用はどう考えているのか？地域の人がやりたいことを活かし、サポートするのが北部広域の仕事であり、民泊では北部3村+名護等連携が出来れば良いと思っている。また、地域課題をクリアするために、各市町村毎で発生した課題を広域連携で共有し、問題点、解決方法を共有することで、各市町村も課題をクリアするヒントとして活用して欲しい。 今まで他地域を知らなかったのが、広域による情報共有化は非常に良いことである。	ヤンバクは協議会があり、構成は漁協等で構成されている。しかし、協議会の主な内容としてはヤンバク中心となってしまい、かつ県の農水省よりヤンバクの支援がつけられている。また、ヤンバクの事務局3村持ち回りにしているが、人件費の捻出が難しく、自分の仕事+事務局の仕事が加わるため、仕事の比重においても難しい面がある。また、やんばる3村ではヤンバクを連携しているが、名護市の大浦とは花で連携しており、それぞれの共通点と地理的な面では連携では重要となってくる。また、本事業で県、OCVBも入れることに賛成である。3村で民泊のVP作製実績あり。 また、事務局を開設しても、事務局にどの機能を持たせるのが重要。観光のニーズを吸い上げ、全体の情報発信も必要。連携については必要という認識であり、以前、美ら島財団で花祭りを連携し、かつ今後は美ら海水族館の美ら海プラザでイベントをやることも検討中。空港ウェルカムホームでは本土へ帰る観光客へ「東村パインツル」の周知にはなった。

訪問団体	東村観光推進協議会	恩納村商工観光課	恩納村商工会
記入者	小田事務局長		平田事務局長
参加者	観光協会：小田事務局長 北部広域：崎山主査 国建：照屋、金川	役場：長浜課長、野原係長 北部広域：崎山主査 国建：照屋、金川	商工会：平田事務局長 北部広域：崎山主査 国建：照屋、金川
訪問日	9月24日 午後3時00分～	9月25日 午後1時30分～	9月25日 午前10時30分～
Q1 研究会の進め方	それぞれの自治体や団体が取り組んでいる内容や課題などの情報提供及び共有が図れる進め方をして欲しい。北部12市町村が何の施策を行っているのかが理解できれば、各市町村の底上げが期待できる。	エリア毎、観光協会と一緒に実施する方が良い。	計画とおりの実施が良いと思います。
Q2 連携で求められること	各地域の担当者が地域の情報を共有すること。情報収集、情報発信。	一体的な情報発信：やんばるガイドマップ等。 一体的なプロモーション：やんばるの紹介DVD等	観光協会でもホームページを今年中に立ち上げる予定。ホテルや観光客も情報発信が出来るようなものを作成する予定。
Q3 連携の組織体制	A・D案 民間団体は予算、人員を最低限に運営していることから、事務局を担うことは難しいと思う。行政が主導して民間から意見を吸い上げて頂きたい。各市町村や団体の負担を減らせるような事務局をお願いしたい。	D、F案 DもしくはE案を希望。県と一緒に北部地区の観光を考えて行くのが理想。北部広域市町村事務組合に事務局を置くのも良いが、そうすると予算面で市町村負担金等での運営になり、継続が難しくなると思います。	D案 全県を見渡せるような人が引っ張るべきことである。
Q4 事務局の財源	県・市町村から負担金による会費収入。自主事業による財源の確保は難しいと思う。	県での予算確保が望ましい。	OCVBの全額負担ではない。
その他		恩納村文化情報センターは平成27年4月に開設予定。現在建物完成しているが、内装が完成していない様子。PVIについては、エリア毎分け、各エリア15分、ショートPVも作成。恩納、金武、宜野座でエリア分けされ、食に関してとなると、精通した人を紹介したいとのこと。	昭和49年迄、観光協会があったが、商工会を作る際に、観光協会を吸収した経緯があり、商工会が観光協会の役割を実施している。現在「NPO法人ふれあいネットONNA」の名城さんが平成27年4月に立ちあがる観光協会の事務局長になる予定。3、4年前、3村（恩納、金武、宜野座）でドライブマップを作成した経緯あり。恩納村ホテルは今までホテルは全てが完結できるように観光客の囲い込みを行っていたが、観光客が外に行くことを希望するため、連携する方向へと変化している。

訪問団体	金武町産業振興課	金武町観光協会	宜野座村観光商工課
記入者		山川事務局長	新里主事
参加者	役場:安富祖主任 北部広域:崎山主査 国建:照屋、金川	観光協会:山川事務局長 北部広域:崎山主査 国建:照屋、金川	役場:金城課長、新里主事 北部広域:崎山主査 国建:照屋、金川
訪問日	9月25日 午後3時00分～	9月26日 午後1時30分～	9月26日 午後3時30分～
Q1 研究会の進め方		そのまま、計画とおりの実施で良いと思います。	各地域(市町村)の観光事情・内情を踏まえた意見交換を行い、コーディネーターや講師と一緒に取りまとめる。
Q2 連携で求められること		広域により他町村との情報共有が便利である。今後、民泊する修学旅行生を各市町村で取り合いするなどが想像できる、そのため、情報を共有することで、各市町村で切磋琢磨でき、修学旅行生へのサービスがあがり、各市町村のサービス底上げが見込まれる。 1、各市町村の事務局レベルの実践情報の共有 2、観光施策企画・立案 3、マーケティング調査	① 東海岸の観光客ルート・マーケティング調査 ② 北部12市町村一帯となったプロモーション活動
Q3 連携の組織体制	F案 OCVBに委託する。広域からOCVBへというルートではなく、12市町村から直接OCVBへ委託する。委託することでルートが構築し自走出来ようになると思われる。若しくは、事務局は広域で、専門家は現場(道の駅)に事務所を構えるという案もあり。 現状、責任を持って対応出来るところが無い。	A、D、E案 公共性が強い方が良い。	A、D案 より身近に連絡体制が取れる組織を設置していただく連携がとれやすい。
Q4 事務局の財源	OCVBへ委託する場合は12市町村の負担金。しかし29年度以降はやんばる観光がないため、自走出来るような形にするべき。	補助金、県や国の施策メニューを活用した事業費の捻出。	沖縄県またはコンベンションビューローの方から職員を派遣して確保することを望んでいます。
その他	スタンプラリーについては、いしじや自由市場ではなく、ネイチャーみらい館での使用をお願いしたい。 本事業のゴールを聞かれ、求められていることは、 ①観光客の満足度UP(スタンプラリー最低400回収、モニターツアーでのヒアリング) ②入込数のUP ③連携体制の方向性付け(28年度の1年間で事務局を立ち上げる予定) その他、	12月BS朝日で2回放映される観光ビデオを制作中。(にぎわい補助金を利用) がじゅまる食堂の恋の松井プロデューサーを起用。 金武町 夜の街をアピール。(夜のキングタコス)	宜野座-金武で連携している民泊は、一度金武が窓口として、受入れ宜野座(50人程度受入れ可)に連絡が来るシステムである。 宜野座、金武町も風景街道のオープンガーデンや、つつじ祭り、フラワーフェスティバルに参加することで、連携出来る。 未来の道が今年中に道の駅の認可を受ける予定。(認可されると地理的に近いという理由で金武町が道の駅の認可を受け難くなる)

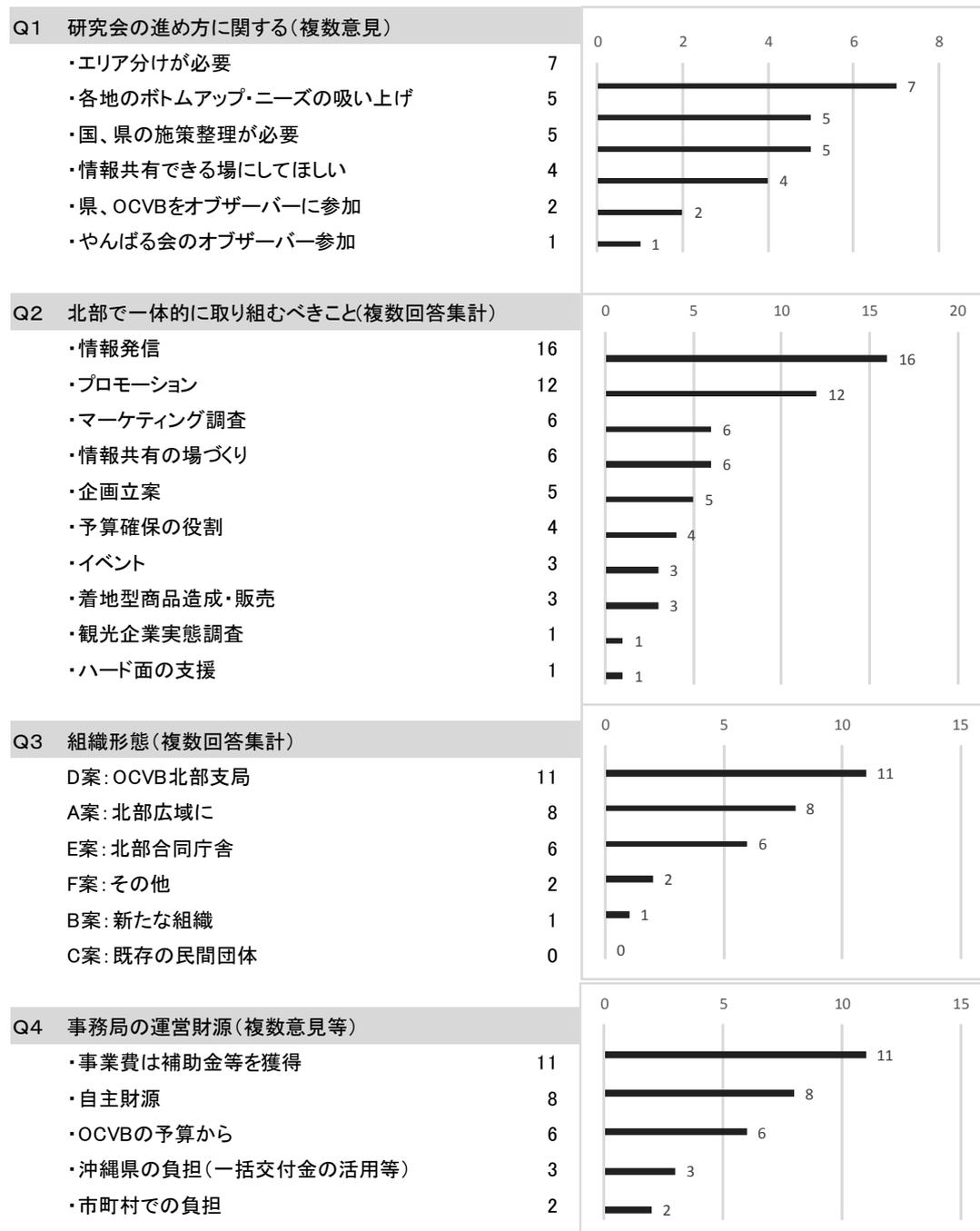
訪問団体	宜野座村観光推進協議会	伊江村商工観光課	伊是名村商工観光課
記入者	仲間事務局長	東江課長	
参加者	観光協会：仲間事務局長 北部広域：崎山主査 国建：照屋、金川	役場：東江課長、島袋課長補佐 国建：照屋、金川	役場：銘苅課長、東江係長 国建：照屋
訪問日	9月24日 午前10時30分～	9月29日 午前10時30分～	10月2日 午後1時30分～
Q1 研究会の進め方		研究会は必要という認識。	国や県で同時に動いているプロジェクトの整理が必要。混乱することがしばしばある。
Q2 連携で求められること	広域で予算を確保し、市町村・観光協会がキャラバン隊で出展に行く等し、自分たちで商品を説明するなどが良い。定例会で課題を挙げ、課題と解決方法などを共有するなどが良い。	一体的な情報発信、 一体的なプロモーション	一般的な情報発信
Q3 連携の組織体制	A案 広域で市町村の案を集約し、OCVBへ案を出すなどが可能では？また、OCVBが那覇にあるため、離島も全て那覇まで行く必要が出てくる。北部に事務所などがあれば、地理的にも便利になる。 A案：北部広域に B案：新たな組織 C案：既存の民間団体 D案：OCVB北部支局 E案：北部合同庁舎 F案：その他	D案 沖縄県の観光動向を知り尽くしている沖縄観光コンベンションビューローの支局設置は、中南部とやんばるを結ぶ大きな原動力となる。	A案 そもそも連携することが必要かも含めて検討すべきでは？ 「ソールドおきなわ」や「やんばるの産業まつり」等で連携実績のある北部広域市町村圏事務組合に事務局（観光専門職員）設置を希望する。
Q4 事務局の財源	市町村で立案したものを、広域が予算確保する体制を取るのが理想である。もしくは一括交付金	沖縄観光コンベンションビューローの支局設置に伴い、OCVBが受注している沖縄県の委託費の増額を望む。	村単費（一般財源）での財源確保は困難であることから、一括交付金等を活用した財源確保が望ましいと考える。
その他	会議の場では、議論が出来る意見の言いやすさと、意見を振返りが可能出来る場が必要。エリア分けでは、金武・宜野座は同じカラーであるのに対し、恩納村は色が異なるので、不安。 事業にOCVBが入っていないため、OCVBを入れた方が良い。また、沖縄の観光はOCVBが主体なので、県+OCVBを入れるべきなのは。 OCVBと観光情報が共有できていない。OCVBから1か月前に展示会の情報を連絡されても、予算計上していないため展示会に行くことはできない。OCVBは1年前から計画しているため、情報共有するだけでも観光協会は予算確保ができ、参加も可能になる。東海岸PJについては、それぞれ地域（国頭3村、名護、金武・宜野座）で色があり、統一させる必要はない。 ファイルバックで観光アピールするのも良い。原価100円程度、みんなが作り易く多少収益になるのを。PVIについては、15分のロングバージョンと、15秒、30秒のショートバージョンも作成	美ら海水族館に来る観光客を呼び込みたい。伊江島を魅せる方法を。花が咲いている間は観光客は来るが、花が咲いてなくても来るような、常に情報発信出来る体制を事務局に希望。伊江村の認知度が低く、県内12番目。 4月のユリマラソンを体験した観光客がその後リピーターの観光客になってもらえればありがたい。花を題材としたツアーを組みたいと希望あり（ハイビスカス2月、つつじ、ユリ）。 スポーツに関しては、現在総合運動場を整備中であり、キャンプ等の誘致は今後営業などによる。事業主体社が変わるだけの重複したプロジェクトは特に無いが、事業主が考えることは、交付金後も事業が継続できるように組織の継続性が求められており、継続できるようにするのが各プロジェクトの目的である。 やんばる観光のHPに伊江ナビのリンクを入れる。	来年度、尚円王600年祭がある。民泊を進めており、グリーンツーリズムの事業で今帰仁、本部との連携も始めようとしている。 現在のところ、大人数の受入れは難しく、断る状況もある。相互に補完する体制ができれば、客を逃がさずに済む。

訪問団体 記入者	伊是名島観光協会	伊平屋村総合推進室	美ら島財団 満名様
参加者	観光協会：上間次長 国建：照屋	役場：上江洲室長 国建：照屋、金川	財団：西銘課長、川満リーダー、満名様 広域：崎山主任 国建：照屋、金川
訪問日	10月2日 午後1時30分～	10月17日 午後1時30分～	9月18日 午後5時00分～
Q1 研究会の進め方	既に検討していることと思いますが、研究会のテーマに向けた事前の意見交換会を各市町村で行ってはどうかと思います。	出来れば3回の内市町村において、各市町村の観光内容を知りたい。	市町村・観光協会が中心となり、目的や地域に応じた観光施策、課題、目標を立案し、そこに観光施設、民間企業などが加わった効果的な連携事業として進めるため、計画⇒実践⇒検証⇒改善が継続的に実施できるよう、常に効果・検証をフィードバックし、改善(事業等拡大)が迅速に図れる体制、拠点や仕組み作りが必要ではないかと考えます。
Q2 連携で求められること		一般的なイベント 北部全域で実施されるイベントを伊平屋での開催を希望し、離島にイベントを呼びたい。 やんばる産業祭り等を各地で開催する、開催場所の持ち回り制を希望。	各自自治体が持つ標準(成長)モデルをすり合わせ、オールやんばるとしての数値目標・アクションプログラムを策定し、可能な限り定量的に示すことを目指して取り組むことが有効ではないかと考えます。
Q3 連携の組織体制	D案 旅行社やメディアとの繋がりが多いかと思えます。 A案：北部広域に B案：新たな組織 C案：既存の民間団体 D案：OCVB北部支局 E案：北部合同庁舎 F案：その他	A案 どうしても取りまとめて実施する際、すり合わせ等が必要になる。*ゆくゆくは大きな北部観光受入窓口(観光プランニーズに合わせた市町村への紹介)	A案 広域的な活動を常に行っており、スポーツ・文化・交流・物産などさまざまな情報が集まっていると思う。それを一体化し、広域的な連携を確立することは出来るのではないかと思う。
Q4 事務局の財源	市町村からの負担金。	一括交付金。	横断的・広域的に展開する県外・海外における広報宣伝等と、これらに関連する事業について、各市町村(観光協会・関係団体含む)が委託を行い委託する管理運営者(拠点的設置も含む)が必要と考えます。一元化することで予算の削減が可能で、効果的に効果の拡大を見込む。 ※やんばる観光協会(収益事業も視野に入れる)と称する法人を立ち上げ、道の駅等を拠点に、公益的な事業展開を図ることも一案あると考えられます。頭に市長村を置き、方向性を決定させ、やんばる会においても、局を持たせるのが理想的。
その他	USJが名護にできれば、北部での滞在が増え、伊是名島にも観光客を呼びやすくなるだろう。修学旅行なども北部で完結することができるのではないかな？	離島に対して、北部広域が人口、産業をどうしたいのか施策など、事務局としての意見を聞きたい。	国、県からの管轄違いで開催される観光プロジェクトが多数ある中、観光協会や団体は管轄違いの同じような観光プロジェクトを複数かけ持ちしており、プロジェクトの仕訳をトップである広域に行ってほしい、広域から一本化で市町村に連絡が行く形を取って欲しい。 ・一度、国、県からのプロジェクトを整理して、国、県、市町村の施策を調査し、方向性を押さえておく必要がある。 ・やんばる連携観光と同じく、美ら島財団の元気プロジェクトにも同時期に「スタンプラリー」があり、本事業と統一を図っても良いのではという話あり。9/30開催の物産センタースタンプラリー説明会に出席予定。 ・美ら島財団からハイサイプラザの活用についても言及されたが、人の設置などについては言及されなかった。

(ヒアリング・アンケート結果のまとめ)

- ① 研究会の進めかた：「エリア分けが必要」
- ② 連携で求められる：「情報発信」、
- ③ 連携体制の組織形態：「OCVB 北部支局」、
- ④ 事務局運営費：「補助事業費」 という声が多かった。

市町村・観光協会等ヒアリング結果



(アンケート用紙)

平成 26 年度やんばる観光連携推進事業 市町村及び観光協会等団体訪問
事前ヒアリングシート

平成 24 年度より北部広域市町村圏事務組合で進めている「やんばる観光連携推進事業」では、やんばるの観光について連携体制の創出を目的に進めています。

今年度は、「(仮称) やんばる観光連携推進研究会」を設け、連携体制の形態や財源、事務局の考え方を具体化していくことを目的としています。つきましては研究会を効率的に進めていくために事前に意見をお伺いして、とりまとめたものを会議資料として使用していきたいと思ひます。

お忙しいなかとは存じますがご記入いただき、こちらから訪問する際に内容の確認とともに回収させていただければと思います。

※ 回答は手書き、word 入力問いません。また、書き込み枠はこの限りではありません。複数ページにまたがっても構いません。

回 答 者	団 体 名		記入者氏名	
	連 絡 先	TEL:	E-mail:	
		FAX:		

Q1: 今年度設置する「(仮称) やんばる観光連携推進研究会」は、やんばるの観光連携体制づくりをテーマとして市町村担当課、観光協会等の団体で話合う場としたいと考えています。研究会の進め方についてご意見があればご記入ください。

※平成 26 年度やんばる観光連携推進事業の実施体制は、別紙1のように考えています。

Q2: 北部12市町村(やんばる広域圏)の連携で取り組むことが、特に求められていて、その効果が得られるのはどのような取り組みであるか、その内容をご記入ください。

例: 一体的な観光施策企画・立案、一体的な情報発信、一体的なプロモーション、一体的なマーケティング調査、一体的なイベント業務等

Q3: やんばる広域で観光連携体制を作ること考えた場合、どのような組織形態が望めますか？
下記のA～E案より最も近いものを選んでいただくとともに、その他お考えのことがあればご記入ください。

A案: 北部広域市町村圏事務組合内に事務局(観光専門職員)を置く

B案: 新たな組織を設立(法人格をもつ団体)

C案: 既存の民間団体、公益法人等に委託

D案: 一般財団法人沖縄観光コンベンションビューローの北部支局の設置要請

E案: 沖縄県北部合同庁舎に観光部局の出先を設置要請

F案: その他(具体的に)

回答欄(左の枠内に上のA～F案より最も近いものを選んでください。

お考えのことをご記入ください。

Q4: やんばる広域で観光の連携体制を作ること考えた場合、事務局の運営に係る財源はどのように確保することが望めますか？

質問は以上です。ありがとうございました！この回答は訪問の際に回収いたします。ご回答は事務局で整理して第1回研究会の資料として活用します。

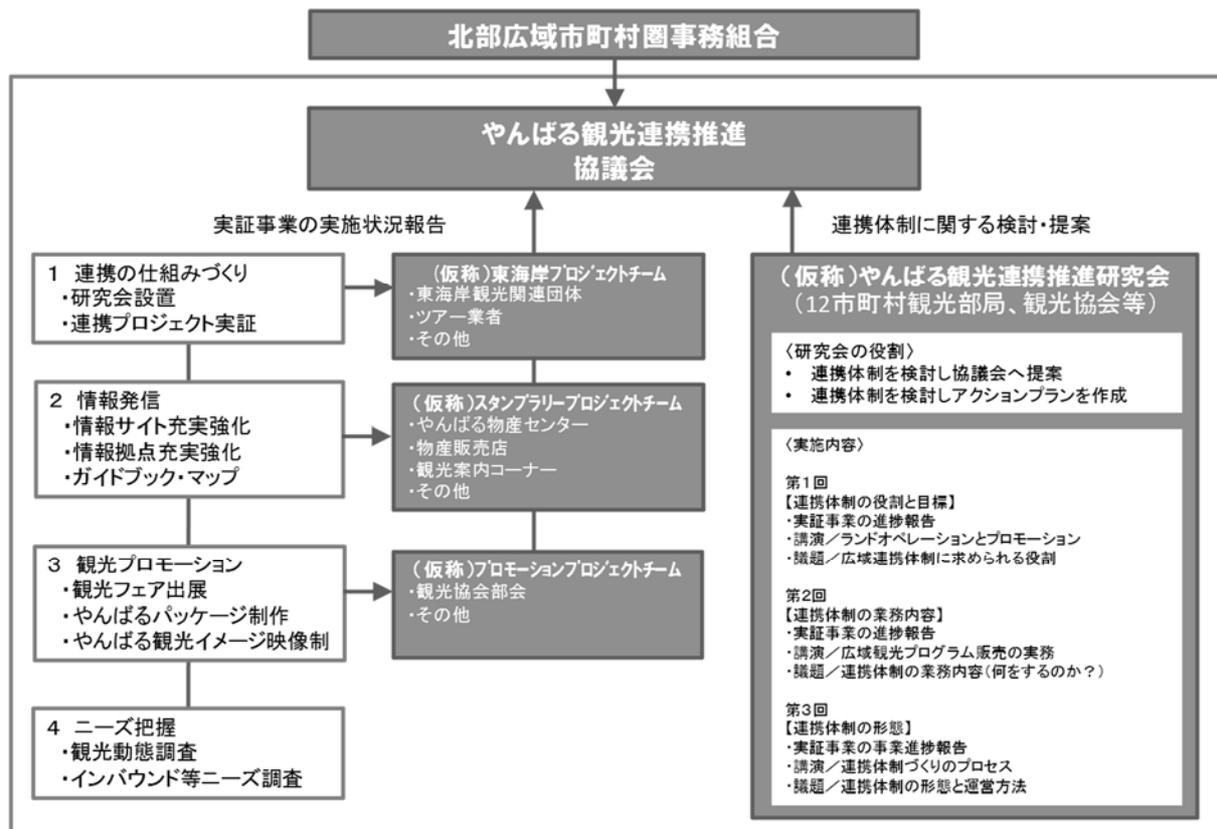
<内容に関するお問い合わせ>

株式会社国建 北部事務所(照屋、金川 他)

TEL: 0980-52-3004 / FAX: 0980-52-3005

e-mail: tadahiko_teruya@kuniken.co.jp

(別紙1) 平成 26 年度やんばる観光連携推進事業の実施体制と役割



①協議会 「やんばる観光連携推進協議会」

- ・ 北部広域市町村圏事務組合の構成市町村副長で構成する。
- ・ 実証事業の進捗や研究会で検討する連携体制の提案を受け、意思決定する。
- ・ 協議会は事業期間中に 3 回の開催を予定する。

②研究会 「(仮称) やんばる観光連携推進研究会」

- ・ 北部広域市町村圏事務組合の構成市町村観光担当課の課長・係長、観光協会等観光関連の団体、その他オブザーバー団体で構成する。
- ・ やんばる観光の連携体制の形態や財源について検討し、協議会に提案する。
- ・ 協議会は事業期間中に 3 回の開催を予定する。

③連携プロジェクトチーム

- ・ 本事業で実施する実証事業について、それぞれ連携プロジェクトチームを設け、企画・立案を行う。実施状況を協議会に報告する。
- (仮称) やんばる東海岸プロジェクトチーム
- (仮称) スタンプラリープロジェクトチーム
- (仮称) プロモーションプロジェクトチーム

④第1回研究会議事録及び会議概要

(開催概要)

実施日時	平成 26 年 10 月 22 日 (水) 14:00～15:30
実施場所	名護市中央公民館
実施対象	研究会メンバー、オブザーバー (沖縄県、OCVB)
参加者	35 人
内容	議題 広域連携体制づくりについて グループ討議

(議事進行)

1. 開会
開会あいさつ／北部広域市町村圏事務組合
2. ごあいさつ
沖縄県文化観光スポーツ部 観光振興課 糸数 勝氏
一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー 翁長 由佳氏
3. 資料説明／資料 1
①実証事業の進捗報告
②市町村ヒアリング結果のまとめ
4. 連携体制についての検討
議題 (仮) 広域連携体制づくりについて グループ討議
ファシリテーター／玉沖 仁美氏 (株式会社 紡 代表取締役)
5. 次年度プロジェクトについて
議題 次年度プロジェクトについて
6. その他
今後のスケジュールについて
7. 閉会

(開催状況)



開催写真



開催写真

(議事録抜粋(沖縄県 糸数氏、OCVB 翁長氏のコメント))

1) 「挨拶」より

沖縄県 文化観光スポーツ課 観光振興課
副参事 糸数 勝 氏

- ・観光リゾート産業は県のリーディング産業として位置付けている。
- ・去年の観光客は 658 万人来ているが、問題が 2 つ存在する。
- ・問題①：観光客消費額の下落。
昔の 92,000 円から現在の 68,000 円まで (▲24,000 円) 下がっている。
⇒県として高付加価値政策を行い、観光消費額向上につなげる
- ・問題②：季節変動による雇用安定問題
季節変動により観光客の入込数が異なるため、ホテルの経営や従業員の雇用の安定問題、不安定要素がある。
⇒経済効果が高く季節変動の少ない MICE やスポーツコンベンション、クルーズ、リゾートウェディングなどの施策を進めている。
- ・今年の新しい話題として、新那覇国際ターミナルが 2 月に完成、4 月にはクルーズ船のターミナルが完成し、平成 32 年には那覇空港に第二滑走路が出来る。USJ が名護市誘致の可能性を検討している。このような事が今後飛躍的に大きく伸びることが期待されている。
- ・市町村、観光協会が一堂に連携するプロジェクトは県としても期待している。今後とも県の施策、市町村と一体となって実施するのでよろしくをお願いします。

OCVB 国内事業部 国内プロモーション課
課長 翁長 由佳 氏

- ・春夏秋冬キャンペーン、沖縄は青い海、青い空だけでなく、春夏秋冬でそれぞれターゲットを決め、効果的な誘致を図っていく。
- ・修学旅行、リゾートウェディング、離島観光と幅広く展開し、観光協会と一緒に展開し、いろいろな意見が図れるよう、また行政の皆さまといろいろな意見を交換し、これを機会に意見を聞かせて頂きたい。

2) 「感想」より

沖縄県 糸数 勝 氏

- ・今後観光 1000 万人目指しており、達成のためにはどういったものが必要か、整理は必要と理解している。
- ・着地型観光については、産業としては成り立たない。全国的にも同じ状況であり黒字化しているところはないが、個人旅行者が多い中、地域をめぐる着地型観光があることは素晴らしいこと。

- ・県が考える北部への誘致は、一市町村での PR では不十分であり、北部 3 村（国頭、東、大宜味）の様な一体となった観光 PR の情報発信が重要と考え、さらに周遊を促すような取り組みが必要であり、離島など単独の市町村では、なかなか PR は難しい。
全国的、都道府県でも同じことが言える。
- ・400 万人の観光客が来ている美ら海水族館、そのまま日帰りになっており、それをさらに一泊させるかというのが課題となっている。
- ・名護市に USJ が誘致の検討を行っている。仮に来た場合、非常に大きなインパクトを持っており、今迄の事業よりも大きく、受け入れ体制が出来るのではないか。
- ・美ら海水族館+USJ でやんばるでの滞在が長くなり、やんばるに泊まる機会が増え、ホテル立地も増える可能性がある。名護に留まらず、国頭や東村まで足が伸びる機会が増えるため、名護市だけでなく、やんばる一帯で誘致して頂きたい。
- ・沖縄の予算には一括交付金があり、広域には広域枠があり、ぜひとも最初は広域枠にチャレンジして頂きたい。
- ・観光専門家が必要であるが、3 年間の人事ローテーションのため育たない。県の職員で対応できないのは、OCVB で対応している。
- ・民泊は、修学旅行で取り入れるのが主流となっている。沖縄は伊江村が有名であるが、民泊を断っていることがあり、市町村の努力で取り組めるようにして頂きたい。
- ・修学旅行生はテーマパーク訪問を多々希望しており、USJ が来た場合、民泊+USJ、ホテル+USJ の図式になる。
- ・名護市は経済金融特区であるためホテルの税制が優遇されており、ホテル誘致が進んでくる。実際投資の話も多くなっている。断っている部分を市町村で受け入れる体制が必要ではないかと考えている。
- ・金武町と、恩納村のリゾートホテル連携

OCVB 翁長 由佳 氏

- ・OCVB に求めるものが大きいと実感している。
- ・各月で観光協会と会長会議、オール沖縄規模で情報共有と連携したプロモーションの展開を図る目的の会議を行っているが、予算が付いた事業ではなく、業務を兼任している担当職員を付け OCVB 独自の自主事業で行っている。
みなさまの求めていることはそれ以上なのか思っている。
- ・離島観光活性化促進事業（八重山、宮古、久米島、その他周辺 15 離島エリア）を実施しており、各エリアに担当を付け、一括交付金（約 2 億円）で予算を付けており、事業展開（3 年目）している。
この取り組みが本島含めた北部、中部エリアに適用出来るかは、今予算がついてはいないが、今後、県と今回の件含め調整出来ればと思っている。
- ・離島観光活性化促進事業は非常に効果的であり、離島コンテンツフェアを東京で実施し各エリアにメディアを派遣し、記事にってもらうなど、事細かな事業展開を実施している。
この事業を北部に落とし込める事業展開ができるのが理想である。

- ・現状 OCVB の体制では北部広域に一人を置くこと、担当を付けることは予算で組み立てられていないが、予算を紐づけ、担当を付け対応することは、大きな課題なのかなと思っている。
- ・観光協会会長会議で実際に上がった問題と同じものがいくつかあり、それを含め、県と調整していければ良い。

(開催状況)



OCVB 翁長氏



沖縄県 糸数氏

⑤第2回研究会会議概要

(開催概要)

実施日時	平成 26 年 11 月 21 日 (金) 13:30～16:30
実施場所	北部会館 3 階
実施対象	研究会メンバー、オブザーバー (観光庁、沖縄総合事務局、OCVB)
参加者数	35 人
内容	議題 ① やんばる観光連携体制の形態について ② やんばる観光連携プロジェクト モニターツアー企画について

(議事進行)

1. 開会
開会あいさつ／北部広域市町村圏事務組合
出欠確認等
2. あいさつ
観光庁観光地域振興部観光地域振興課 専門官 岡村 努氏
3. オブザーバー出席紹介
沖縄総合事務局 運輸部 国際観光調整官 宮里 正吉氏
一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー
国内事業部 プロモーション課 翁長 由佳氏
4. グループ討議 (エリア別) /資料 1
ファシリテーター／玉沖 仁美氏 (株式会社 紡 代表取締役)
①やんばる観光連携体制の形態について
②やんばる観光連携プロジェクト モニターツアー企画について
5. その他
6. 閉会

(開催状況)



グループ討議



グループ討議内容の発表

⑥第3回研究会会議概要

(開催概要)

実施日時	平成 27 年 2 月 20 日 (金) 13:30~16:00
実施場所	北部会館 3 階
実施対象	研究会メンバー、オブザーバー (沖縄総合事務局)
参加者数	27 人
内容	議題 ①次年度エリア別プロジェクトについて ②やんばる観光連携推進事業体制について

(議事進行)

1. 開会
開会あいさつ／北部広域市町村圏事務組合出欠確認等
2. オブザーバー出席紹介
内閣府沖縄総合事務局 運輸部 国際観光調整官 宮里 正吉氏
3. 実証事業進捗報告
①全体報告
②観光客動態調査報告
／株式会社ゼンリンデータコム Web-GIS 事業部 金田 穂高氏
4. 議事／資料 1
ファシリテーター／玉沖 仁美氏 (株式会社 紡 代表取締役)
①次年度エリア別プロジェクトについて (45 分)
②やんばる観光連携推進事業連携体制について (45 分)
5. その他
6. 閉会

(開催状況)



エリア連携プロジェクトの企画発表



エリア別の連携体制に関する発表

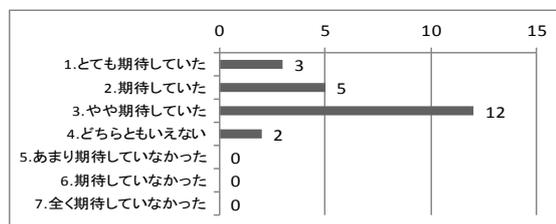
⑦研究会メンバーアンケート

(実施概要)

目的	3回の研究会を終了後、研究会メンバーへ本事業についての満足度や感想を聞くためアンケートを実施。
実施期間	平成27年2月27日～3月13日
質問内容	①事業開始前、連携事業に対してどの程度期待していたか？ ②事業の実施内容、進め方に満足したか？ ③事業実施により、やんばる観光の連携が進んだと感じますか？ ④今後も12市町村の観光連携を推進していくことは必要だと思いますか？ ⑤事業に参加して良かったことはなんですか？ ⑥今回の事業で継続が必要と思う事業はどれですか？

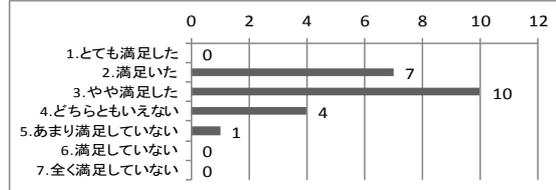
Q1 連携事業に対する期待度 合計

1	1. とても期待していた	3
	2. 期待していた	5
	3. やや期待していた	12
	4. どちらともいえない	2
	5. あまり期待していなかった	0
	6. 期待していなかった	0
	7. 全く期待していなかった	0



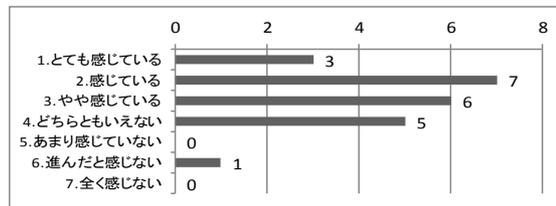
Q2 連携事業に対する満足度

2	1. とても満足した	0
	2. 満足した	7
	3. やや満足した	10
	4. どちらともいえない	4
	5. あまり満足していない	1
	6. 満足していない	0
	7. 全く満足していない	0



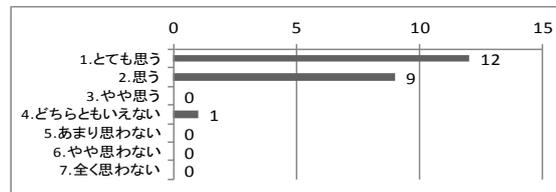
Q3 連携が進んだか？

3	1. とても感じている	3
	2. 感じている	7
	3. やや感じている	6
	4. どちらともいえない	5
	5. あまり感じていない	0
	6. 進んだと感じない	1
	7. 全く感じない	0



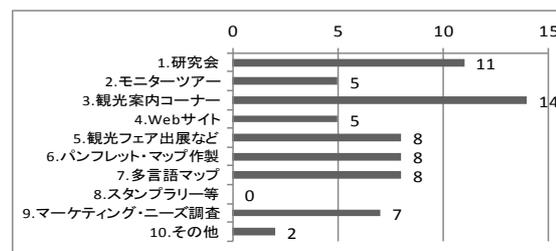
Q4 連携事業の必要性

4	1. とても思う	12
	2. 思う	9
	3. やや思う	0
	4. どちらともいえない	1
	5. あまり思わない	0
	6. やや思わない	0
	7. 全く思わない	0



Q5 連携が必要な事項

5	1. 研究会	11
	2. モニターツアー	5
	3. 観光案内コーナー	14
	4. Webサイト	5
	5. 観光フェア出展など	8
	6. パンフレット・マップ作製	8
	7. 多言語マップ	8
	8. スタンプラリー等	0
	9. マーケティング・ニーズ調査	7
	10. その他	2



1-2 連携プロジェクト実証

①相互視察行程

(開催概要)

目的	東海岸プロジェクトとして、5市町村が各地域の観光資源の課題・発掘のため、相互視察を実施した
実施日	第一回目 9月17日(水) 第二回目 10月1日(水)

(行程)

実施日	金武町
9月17日 (水)	ギンバル訓練跡地開発
	億首川周辺
	新開地社交街
	金武鍾乳洞
	金武大川(ウッカガー)
	ネイチャーみらい館及び田芋畑
	宜野座村
	松田鍾乳洞周辺
	伝統行事
	カンナタラソ・漢那ビーチ
	漁港施設
	漢那ダム
	いちご体験農園
	名護東海岸
	わんさか大浦パーク
	二見メロディーロード
	大浦湾・大浦川マングローブ林
汀間川	
嘉陽集落	
10月1日 (水)	名護東海岸
	黙々100年塾蔓草庵(甕泡盛所蔵、作り方、遊び等)
	天仁屋(絶景)
	東村
	オガタマノキ(階段の先の大木)
	東村ふれあいヒルギ公園(カヤック)
	つつじエコパーク(昼食、セグウェイ、施設内車窓視察)
	福地ダム
	東村立山と水の生活博物館
	サキシマスオウノキ
	国頭村
奥やんばるの里(棚田)	
やんばる学びの森(森林ツアー、ナイトハイク、宿泊)	

(相互視察風景)



写真①



写真②



写真③



写真④

(相互視察参加者)

第一回相互視察

【プロジェクトチーム 5人】

	氏名	所属・役職
1	山川 安雄	NPO 法人国頭ツーリズム協会 代表理事
2	深田 友樹英	名護市企画部企画調整課 地域づくりコーディネーター
3	翁長 一史	わんさか大浦パーク
4	仲間 赴人	宜野座村観光推進協議会 事務局長
5	松田 健人	NPO 法人雄飛ツーリズムネットワーク 理事長

【事務局 5人 他2名】

	氏名	所属・役職
6	崎山 ゆかり	北部広域市町村圏事務組合 主査
7	大城 亜紀乃	北部広域市町村圏事務組合
8	豊里 美奈	北部広域市町村圏事務組合
9	照屋 忠彦	受注スタッフ ((株) 国建)
10	宮平 江美子	受注スタッフ ((株) 国建)

第2回相互視察

【プロジェクトチーム 8人】

	氏名	所属・役職
1	山川 安雄	NPO 法人国頭ツーリズム協会 代表理事
2	大城 雄聖	やんばる学びの森
3	小田 晃久	NPO 法人東村観光推進協議会 事務局長
4	儀間 しのぶ	NPO 法人東村観光推進協議会
5	深田 友樹英	名護市企画部企画調整課 地域づくりコーディネーター
6	仲間 赴人	宜野座村観光推進協議会 事務局長
7	仲村 優一郎	宜野座村観光推進協議会
8	松田 健人	NPO 法人雄飛ツーリズムネットワーク 理事長

【事務局 8人 他1名】

	氏名	所属・役職
9	崎山 ゆかり	北部広域市町村圏事務組合 主査
10	大城 亜紀乃	北部広域市町村圏事務組合
11	豊里 美奈	北部広域市町村圏事務組合
12	高橋 秋男	名護市観光協会 さくらガイド
13	照屋 忠彦	受注スタッフ (株) 国建)
14	宮平 江美子	受注スタッフ (株) 国建)
15	新嘉喜 長健	受注スタッフ (株) 国建)
16	金川 達郎	受注スタッフ (株) 国建)

(第一回視察 9月18日 議事録)

1. 意見交換

・【崎山】

日頃出向けない様々な地域へ行くことができた。風景、水、緑の深さが共通項目としてあると感じた。人がまだ多くないことで、交通量が少ないことも魅力。金武、宜野座はスポーツ施設が整っているので、スポーツ女子というコンセプトで人を呼び込めるのではないか。今日視察した距離スケールを利用して、マラソンや自転車での周遊も考えられるのではないか。国頭や東村との連携では、コスメの開発も多いのでそれらを活用しながら、スポーツの後に有機野菜を使った食事をみらい館で提供する、カンナタラソで温泉につかるなども良い。「健康的な美しい女子」というイメージを持った。どの層の女性でも可能性はあると感じる。

・【事務局(宮平)】

嘉陽の集落の景観が印象深い。集落に溶け込むように地域の人々と交流をしても良い。宜野座はカンナタラソの景観が印象に残った。金武町は鍾乳洞からみらい館までの景観が印象に残った。景観が美しいかそうでないかという視点は女性目線では重要ではないかと思

う。見たくない景観（ゴミや雑草、看板が多い）は無意識に排除されてしまう。見たいものがあって、滞在したいと思う場所は、すでに美しい景観がしっかりとできあがっている。

- ・ **【崎山】**

「朝日から夕日まで楽しめる」というのが東海岸という考え方もできる。朝から夜空まで美しいという点も魅力になる。

- ・ **【深田】**

通ったことはあるが、知らなかったという場所が多かったので新しい発見ができた。共通する点は、若い方が尽力されているという点が特徴的である。また、地域活動として動き出したのは比較的最近であるという点について、これから模索しながらつくりあげていく、チャレンジしていこうという状況にあることが感じられた。景観としては二見のトンネルを境に山の部分と、なだらかな風景が印象に残った。それぞれの地区で特徴的な資源が多いので、これらの資源を繋げたときにどのような強みが構築されるのかを考えながらアイデアを出したい。

- ・ **【翁長】**

地元の若い方が取り組んでいることが良いことだと感じている。久志地域は協議会が立ち上がってまだ間もないので、金武、宜野座を参考に検討していきたい。

- ・ **【松田】**

全体に体に良さそうな資源が多く、これを強みとして特徴づけることができるのではないかと感じた。宿泊の部分は弱いのではないかと感じている。現在、通過型観光というイメージが定着しているが、立ち止まって裏側を見てみると、まだ多くの魅力があることが分かった。金武町の「食べる」という資源においては、まだメジャーでない美味しい食べ物がたくさんあることを伝えたい。西側にはない、ここにしかない、というものを各地域から抽出してブラッシュアップし、点を繋げる形でプランをつくるのも良いと感じた。58でなく、329をメジャーにしていきたい。沖縄といえば西海岸というイメージがある。リピーターの方々に東海岸から、違った沖縄の姿を紹介したい。

- ・ **【仲間】**

宜野座村だけでは成り立たないが、他の地域と繋げることで良いプランをつくりたい。これまで互いの地域間の移動時間は長いものと思い込んでいたが、15分で宜野座から金武へ行けることが分かり、思っているほど遠くないのではないかと感じた。二見から金武町までの道を辿ってみると、歴史的な流れを感じた。昔ながらの景色から、金武町の新開地まで、タイムスリップしたような感じを受けた。そのような歴史を感じるプランをつくるのも魅力があって良い。若い人が多く、いろいろなことを進めやすいこと、弊害がないことが良い傾向だと感じている。競合するのではなく、補填し合うことが大事。西側にはあまりみられない路地めぐりの旅も楽しいのではないかとと思う。朝日を利用したプログラムも繋げられたらと思う。

- ・ **【山川】**

健康的な美しい女子、景観として完成している所、朝日から夕日、星空まで、立ち止まっ

て裏側をみると素晴らしいところがある、西側にない路地裏ツアーなどといった内容が印象に残った。やんばるの森が世界遺産になるという考え方をした場合、東側から様々な魅力のコントロールをすることで良いプランができると思う。質の高い観光形態を実践できる場所ではないかと感じている。

2. ターゲットについて

・【事務局（照屋）】

目的、目標を共有するという点において、やんばる東海岸でモデルコースを構築し、最終的に商品化できると良いと思う。そのために、何を決めて、何をすべきかを考えたい。

・【金城】

観光客が700万に近い数字になっている中、GWに観光客にヒアリングをしてみると、1回目の滞在印象が非常に良く、それがリピーターとなる素地をつくりあげていることが分かった。民泊の印象も良い。ターゲットは県外客だと感じている。じゃらんネットを活用して滞在する客は東京からの客が圧倒的に多い。県外客向けのコースを県内客へ発信することで両方に利用されるものとする。個別層にターゲットをしぼったコースを構築する方が受け手の印象に残り、口コミで広がっていく。ターゲットの決定を先にすることは優先的にすべきと考える。

・【事務局（宮平）】

女子がマーケットでないという考え方はあるか。

・【山川】

学びの森は最近男子学生が多い。

・【崎山】

女性はどこへ行っても元気な人が多いという印象がある。

・【金城】

全国的には旅行人口は減少傾向にある。女性がプランを決めてお金を使うというパターンが多い。女性ウケが良いと男性にも人気が出る。傾向として、女性がマーケットをけん引している感がある。男性のみのマーケットはかなり少ない。

・【松田】

中学も高校生も女子の方がかなり元気がある傾向だ。

・【仲間】

ターゲットは女子だと断定できる。西に負けないターゲット層となると、ツウ的な人というイメージ。今日は、まだ知らない沖縄があるという感覚が感じられた。多くの地域を知っているつもりだったが、今日の視察で再発見した部分が多い。沖縄ツウになりたい人を呼び込む地域だと感じた。

・【松田】

女子目線での商品づくりが重要。ディープな部分を紹介できると良い。同じ女性でも、商品内容によって年齢層等カテゴリも変わるのではないか。

・【金城】

東海岸を知っている層といったカテゴリはまだ少ないと思う。沖縄好きな人は、とにかく沖縄へ行くこと、沖縄にいる時間そのものに幸せに感じている。観光ガイドをみるより、

知らない沖縄情報を得ることが満足に繋がっている。その部分に今日のような情報をうまく入れ込めないか考えたい。

- ・ **【山川】**

夜空や、浜辺等、自分だけの空間に満足して帰っていくような人たちにとって、東海岸は満足される地域だと思う。

- ・ **【金城】**

非日常的な部分としては、東京都心では、夜空や海辺、朝日を眺める時間はなかなかない。自宅では得られないものを感じたい人が多い。じゃらんネット利用者は、17~18%が6回以上沖縄を訪れるリピーター。ターゲットは、沖縄が初めてという人ではなく、リピーターだと考える。

- ・ **【崎山】**

宜野座村の有機野菜、野菜ソムリエを活用するなど、健康に気を使ったプログラムは望ましいのではないか。

3. 次回視察について

- ・ 2月上旬にモニターの受け入れをすることを目標に、プログラムを作ることを考えたときのスケジュール感について検討したい。
- ・ 11月の2週目までにはプログラムが完成してはいなくてはいけない。
- ・ 東村、国頭村視察は9月中に開催したい。名護の天仁屋、底仁屋も次回プログラムに入れる。民泊の時期は避ける。
- ・ スタート地点については検討要。
- ・ 9月29、30~10月1日を仮設定する。

(第二回視察 10月1日 議事)

1. 意見交換

- ・ **【山川】**

昨年度積み上げた内容の検証が必要ではないか。金武から奥までのプランを作成するにあたっては、自分たちが一番何をしたいのか、それに適当な時間軸はどの程度か、再度自らイメージし、検討する必要がある。金武から奥までのエリアを一気に一つのプランにすることが本当に可能なのか、切り分けたプランも考えられる。そもそも本視察の目的は互いに何をしているかを把握するためのものだった。今回の2回の視察を踏まえ、何のためにこの事業をすすめているのかも含めて振り返る時間が必要で、それを積み重ねながら整理していく必要がある。連携そのものについて再度検討し、どうつながることが理想的なのか考える必要がある。

- ・ **【仲間】**

前回の視察でターゲットは女子だという話があった。今回視察を通して、金武は女性に人気が高い、奥は男性が好みそうだという感想もあり、年齢や性別に関係なくターゲットを設定せず、まずはツアーコース（癒しやアクティブ）をつくりあげ、そこにターゲットが訪れる、という流れが良いのかもしれないと感じた。地域の良さを発信することや、自分

たちがしたいことをするためには、ターゲットに合わせるのではない気がする。これまでの検討内容や視察内容を整理して何が良いか再度皆で話し合う必要がある。家族でツアーにきて、それぞれ分かれて行動することも多い。ターゲットがツアー内容に合わせてくれるような仕組みになると良い。せっかくの広域各地の素晴らしい資源を面白くつなげられると良い。

- ・ **【金城】**

こちら側が皆さんから、具体的商品づくりのために、どこを一番見てほしいといった話を聞きながら、魅力ある内容を引き出せると良いと考えている。

- ・ **【深田】**

視察をして感じたのは、それぞれ認知度が低い、誘客数が少ないという点については共通していると思う。資源、提供しているメニュー、実際訪れている層もそれぞれ違いがある中で、連携する意味が持てるポイントを探す必要があると感じた。どのお客様をのぼしたのかは地域によって違うはず。単体資源では難しいが、いくつか連携すると成立するといったメニュー作りができるのではないかと感じた。

- ・ **【松田】**

女性にうけるもの、男性に受けるもの、家族にうけるもの、それぞれの資源でターゲットは変わってくると感じる。まず認知度の高い資源で誘客し、そこからさらに深い情報を教えるという発信イメージもある。どこをどう組み合わせるかである。いろいろな組み合わせができればそれだけ多くの誘客が可能だと思う。

- ・ **【照屋】**

素材リストも各市町村からいただいているので、再度洗い出して、ターゲットや組み立てをどうするかについて検討する必要があると感じた。

- ・ **【金川】**

東海岸は西海岸と違い、岩が目立つという印象だった。県外客からすると、東海岸は海プラスチックや岩があって、沖縄に来る前のイメージとは違うと感じるのではないかと。西海岸との違いはそこにある。視察中も「沖縄でないようだ」という声もあったので、それを生かすと良い。

- ・ **【崎山】**

ターゲットは今回は具体的にイメージしなかったが、東海岸のスケール感が西海岸とは違うと思った。

- ・ **【豊里】**

女性の視点で感じたのは、坂などが多くて、ヒールでは行くことができないなど、知らないといけないが多かった。沖縄といえば西海岸のイメージが大きいはずなので、リピーターの方々へのアピールの仕方をしっかり検討することで集客につながる。女性の8割がFBやツイッターなどをしていると思う。しかし、東海岸はネットワークが繋がらないところも多かった。つながるようなサインも必要ではないかと感じた。また、トイレなどの設備や看板もなかったなのでその充実も必要と感じた。

- ・ **【大城】**

女性がターゲットと聞いていたが、アグレッシブなプランとしても、ハードな箇所も多く、

1日で周遊するのは厳しい。島袋さんの泡盛づくりなどは泡盛が飲めない人もいるだろう。女性だけでなく、男性の方が興奮度のあがる施設もあるだろう。資源ごと、あるいはカフェを追加しながらのコースなど、別途分けてのコースづくりも良いかもしれない。

- ・ **【高橋】**

東京に40年住み、沖縄に移住してきた。本日視察して、国頭は本土の東北と似ていると感じた。今の東北がなぜ観光が成功しているのかを考えてみるのも良いかもしれない。月17日観光ガイドをしているが、古宇利島からワルミ大橋、今帰仁定跡、備瀬のフクギ並木等、ロケーションの関係がとても整っている資源は良いと感じているところだ。最近はパワースポットの人气が非常に高い。パワースポットの掘り起し情報をガイドが発信することもある。許田の道の駅で東海岸の各スポットを紹介すると良いのではないかと。

- ・ **【宮平】**

前回女子をターゲットにするべきだと感じたが、今回女子ではきついコースもあると感じた。女子に合わせたコースにする場合、いくつかの行先をカットすることになるかもしれない。そうすると地域の人たちが本当に伝えたいものを取りこぼしてしまうことも考えられる。地元の人たちが幸せを感じながら発信する情報を、受け取る側も喜んで受け取ることができるというのが望ましい気がしている。東海岸で周遊してきた資源を皆であらためて評価するのも良いかもしれないと思った。一つ一つの資源について伝えなかったことを洗い出して、それを持ち寄れば何かストーリーのあるプランができるのではないかと考えた。

- ・ **【金川】**

地域の人が今したいことは、今ある資源を発信して集客をすること。日の目を見られない資源が発生してしまうようなプラン設定とならないよう、観光客とはだれをさすのか、絞り出しをして、地域主体で発信したいことは何か整理する必要がある。

- ・ **【大城】**

国頭は距離があるとあらためて感じた、プラン全体の流れとして、期待度が上がっていくような、距離の長いドライブ中も楽しめるようなプランづくりが必要だと感じた。

- ・ **【新嘉喜】**

天仁屋と東村の距離はそれほど遠くないと感じた。10分間隔程度で色々なスポットに行けて、東海岸で宿泊するための夜のメニューを用意すると良いのではないかと考えた。一泊しやすい、誘導しやすい資源はかなりあるのではないかと考えた。ヤンバルクイナに出会うという非常に貴重な体験ができるのも早朝ということもあり、それも含めてプランに追加すると良いものができる。

- ・ **【照屋】**

昨年度からの積み上げを確認する必要があると感じている。連携が大きなテーマになっているので、連携してメリットを得るところは何かを再度整理したい。その上で、各地域で何をしたいのか再度検討し、専門に任せるところは何かなどを整理したい。2回の視察内容を整理し、再度皆で検討する時間を持ちたい。

②企画会議経緯

(第1回 東海岸プロジェクト会議)

日時：10月9日 10:00～12:00 / 場所：北部会館

【出席者 4人】

氏名	所属・役職
山川 安雄	NPO 法人国頭ツーリズム協会 代表理事
小田 晃久	NPO 法人東村観光推進協議会 事務局長
深田 友樹英	名護市企画部企画調整課 地域づくりコーディネーター
翁長 一史	わんさか大浦パーク

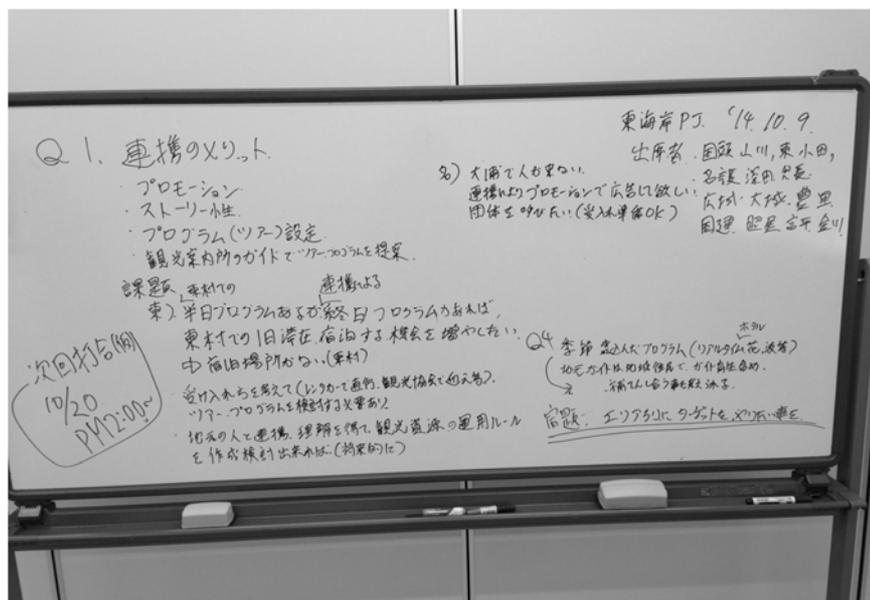
【事務局 5人】

氏名	所属・役職
豊里 美奈	北部広域市町村圏事務組合
大城 亜紀乃	北部広域市町村圏事務組合
照屋 忠彦	受注スタッフ (株) 国建
金川 達郎	受注スタッフ (株) 国建
宮平 江美子	受注スタッフ (株) 国建

議事内容

- 1) 連携に期待するメリット
- 2) 地域で抱える課題があり、連携により課題解消を図る目的意識を共有
- 3) 地域住民が大切にしている場所を観光資源として活用する場合、地域住民の理解を得て、運用ルールを決定する事などが今後必要となってくる。
- 4) 次回議題に備え、各地域で「どの観光資源を！誰に！」売りたいのかを宿題として事前確認すること。

(打合せ議事内容)



(第2回東海岸プロジェクト会議)

日時:10月20日 14:00~17:00 / 場所:北部会館

【出席者 6人】

氏名	所属 ・ 役職
山川 安雄	NPO 法人国頭ツーリズム協会 代表理事
小田 晃久	NPO 法人東村観光推進協議会 事務局長
儀間 しのぶ	NPO 法人東村観光推進協議会
深田 友樹英	名護市企画部企画調整課 地域づくりコーディネーター
松尾 太士	名護市企画部企画調整課
仲間 赴人	宜野座村観光推進協議会

【事務局/北部広域市町村圏事務組合 1人】

崎山 ゆかり	北部広域市町村圏事務組合 主査
--------	-----------------

【事務局 5人】

氏名	所属 ・ 役職
玉沖 仁美	アドバイザー (受注スタッフ)
照屋 忠彦	受注スタッフ ((株) 国建)
金川 達郎	受注スタッフ ((株) 国建)
宮平 江美子	受注スタッフ ((株) 国建)
新嘉喜 長健	受注スタッフ ((株) 国建)

議事内容

- 1) 出発日を決定し、2月中にモニターを完了させる
- 2) 大人の民泊がモニターツアーの内容として方向付けされた。
 - ・ 大人の民泊で採算の合う価格設定が必要。
 - ・ お飲酒が可能となり、それなりの料金が発生する。
- 3) 民泊の目的は現地の人と接すること。
 - ・ 接するか接しないかの選択肢はある。
- 4) 地域が狙うターゲットとモニターを出来る限りマッチングさせるが、出来なければアンケートに記入をお願いします。
- 5) 現在民泊で起こっている問題として、事務局を通して一度民泊を経験した人が同じ民泊先に泊まりたいと事務局を通さずに連絡するケースが生じている。(手数料、安全性の問題等)
- 6) 修学旅行の様な夜間待機は不要。
- 7) 宿泊内容は、①民泊2連泊、②民泊1泊+地域プチホテル1泊、③民泊+学びの森1泊、④民泊+リゾートホテル1泊で検討する。

(第3回東海岸プロジェクト会議)

日時：11月13日 16:00～19:00 / 場所：北部会館

【出席者：4名】

氏名	所属・役職
山川 安雄	NPO 法人国頭ツーリズム協会 代表理事
大城 雄聖	やんばる学びの森
深田 友樹英	名護市企画部企画調整課 地域づくりコーディネーター
松尾 太士	名護市企画部企画調整課

【事務局/北部広域市町村圏事務組合 1人】

崎山 ゆかり	北部広域市町村圏事務組合 主査
--------	-----------------

【事務局 5人】

氏名	所属・役職
玉沖 仁美	アドバイザー（受注スタッフ）
照屋 忠彦	受注スタッフ（（株）国建）
金川 達郎	受注スタッフ（（株）国建）
宮平 江美子	受注スタッフ（（株）国建）
新嘉喜 長健	受注スタッフ（（株）国建）

議事内容

1) 民泊

■民泊可能な場所

- ・ 民泊は簡易宿所の資格を有する民家とする。

■民泊宿泊

- ・ 民泊は1泊では民家の方と仲良くなかなかないため、2泊のパターンも検討する。
- ・ 下記4パターンを検討する
 - ①民泊+民泊（同じ民家2連泊）⇒他市町村も連泊希望？
 - ②民泊+学びの森
 - ③民泊+プチホテル
 - ④民泊+リゾート
- ・ 民泊、民間宿泊所でどちらを初日にするかは別途決定。

■民泊の価格帯

- ・ 大人の民泊は2人宿泊で民泊の方に利益が出る価格帯にする。
- ・ お酒も提供するため、酒代含めた価格にする。

- ・ 大人の民泊の価格帯は下記 2 通りを検討する。
 - ①大人に自由度を与えて、民家の負担を減らす代わりに、価格を抑える。
 - ②つきっきりが民泊の面白さであり、その分料金を上げる。

■ターゲット層

- ・ 民泊のターゲットは沖縄でゆっくりしたい人。(あちこち自分で行きたい人はホテルに行くだろう)
 - ・ 民泊はリピーター率が高い、バックパッカーで海外へ行き、交流が好きな人のリピーター率が高い。
 - ・ 若い層(20代)、大学生など素直な人に民泊の受けが良くリピートもある。(つきっきり型)
 - ・ 農家さんと少しでも共通点がある人(家庭菜園好きなど)
- ※アンケートにどんなターゲットなら当てはまるかをも実施する。

■リピート問題

- ・ 民泊では、過去宿泊した人が同じ民家の宿泊を希望する指名があり、どここの家に泊まりたい、会いに来たということがある。さらに事務局を通さず、宿泊される場合がある。
- ・ 他県では、事務局を通さず宿泊させ何か問題・事故を起した場合は、次回の宿泊施設として外すこととしている。
- ・ 修学旅行時は事務局が夜間待機を行うが、大人の民泊では夜間待機は不要。
- ・ 大人の民泊では個人でレンタカーの場合を考えると、民家まで辿り着けない可能性があるのでは？

2) ホテル

■やんばる学びの森(ツイン6部屋)

- ・ 帰ってきてゆっくりした時間を過ごせる場所として検討している。
- ・ 薬草風呂に入り、野草料理食べて、海辺で星空観察をする。

■プチホテル/リゾートホテル

- ・ 周遊や消費の効率を検討し、事務局でホテルを検討。

3) 地域プログラム

■着地型商品

- ・ 当日予約プログラム実施が可能なプログラムは限られている。
- ・ 各地域から当日、前日、事前予約(宿泊と抱き合わせパック)としての地域プログラム商品を提出して頂く。
- ・ 「やんばる学びの森」の日帰り薬草風呂を活用しPRを図る。

■ランドオペレーション

- ・ 着地型商品を地域間（地域内？市町村超えて？）で紹介しあうためには、現場サイドまでの周知が必要。
- ・ 連続して2つの着地型商品を実施出来る時間はあるのか？
- ・ どこまでのレベル（声がけまで？電話で確認まで？予約まで？）で情報交換しランドオペレーションを行うかは次回の打合せで検討。

東海岸プロジェクト モニターツアー 11月13日検討内容

1) モニター募集～実施～報告迄の流れ

- ・ 11月～12月 : モニター募集・説明会（東京で開催）
- ・ 1月下旬～2月上旬 : モニターツアー実施（五月雨式）
- ・ 2月中旬 : アンケート回収
- ・ 3月 : モニターツアー結果報告

2) モニター検証事項（滞在日数：2泊3日）

- ① 「大人の民泊」を開催（民間施設1泊&大人の民泊1泊）
 - : a) ターゲット層の検討（男性、女性、年齢、企業、一般）
 - b) PRポイントとは？（農業体験、漁業体験、その他）
 - c) 民泊以外の宿泊施設で、民間施設はどこを使用？
- ② 「やんばる流ランドオペレーション」機能で客を回せるのか？
 - : a) 各地域での観光商品把握（1月、2月実施可能な商品）
 - b) オペレーションまでの準備（現場レベルまでの周知）
- ③ 各地域で売りたい観光商品は受けるのか？
 - : a) 9月、10月各地域で下見した箇所の反応
 - b) 既存の観光商品（改善したい、した結果の反応）
- ④ その他連携の実証

(第4回東海岸プロジェクト会議)

日時：12月16日 / 場所：北部会館

【出席者：5人】

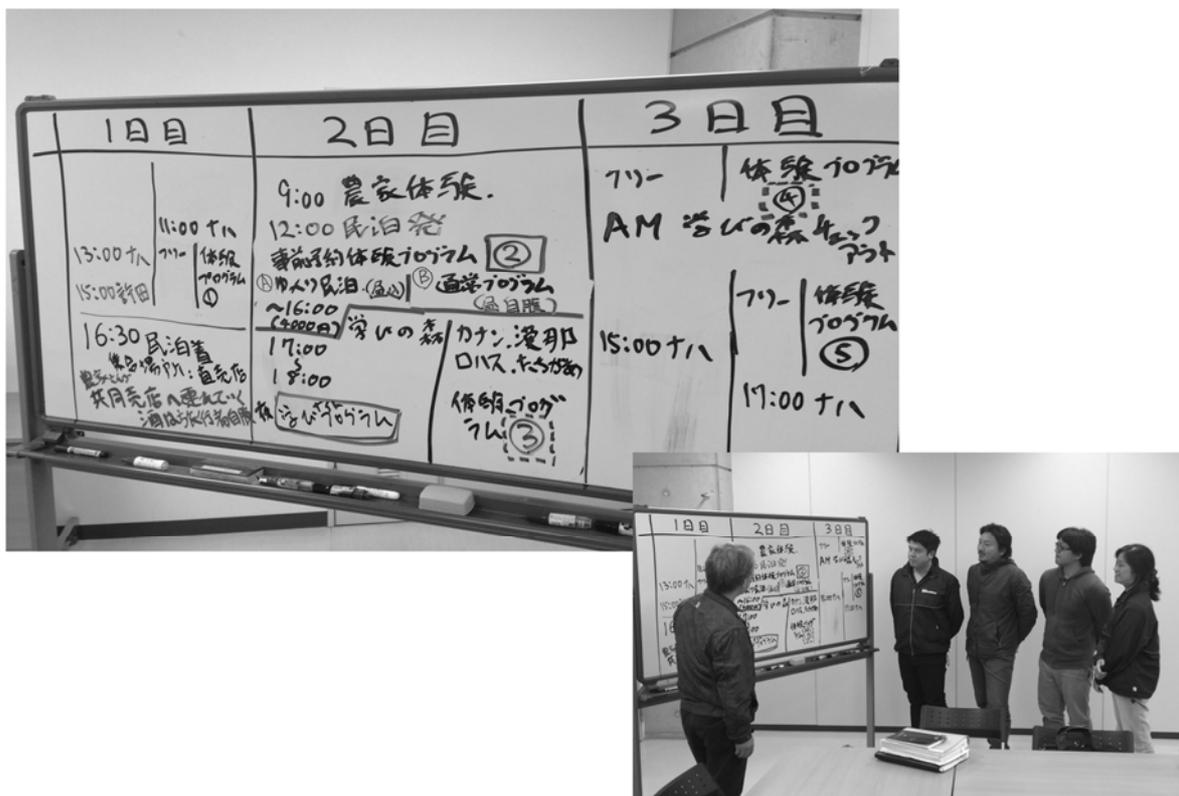
氏名	所属・役職
山川 安雄	NPO 法人国頭ツーリズム協会 代表理事
大城 雄聖	やんばる学びの森
小田 晃久	NPO 法人東村観光推進協議会 事務局長
儀間 しのぶ	NPO 法人東村観光推進協議会
松尾 太士	名護市企画部企画調整課

【事務局/北部広域市町村圏事務組合 1人】

崎山 ゆかり	北部広域市町村圏事務組合 主査
--------	-----------------

【事務局 6人】

氏名	所属・役職
照屋 忠彦	受注スタッフ (株) 国建
金川 達郎	受注スタッフ (株) 国建
宮平 江美子	受注スタッフ (株) 国建
新嘉喜 長健	受注スタッフ (株) 国建
玉沖 仁美	アドバイザー (株) 紡
喜屋武 睦子	受注スタッフ (株) 紡



(第5回東海岸プロジェクト会議)

日時：1月21日 15:00～17:00 / 場所：北部会館

【出席者：7人】

氏名	所属・役職
大城 雄聖	やんばる学びの森
小田 晃久	NPO 法人東村観光推進協議会 事務局長
松田 健人	NPO 法人雄飛ツーリズムネットワーク 理事長
松尾 太士	名護市企画部企画調整課
仲間 赴人	宜野座村観光推進協議会 事務局長
高橋 秋男	公営財団法人名護市観光協会 さくらガイド
東江 司	公益財団法人名護市観光協会 実施支援員

【事務局/北部広域市町村圏事務組合 1人】

崎山 ゆかり	北部広域市町村圏事務組合 主査
--------	-----------------

【事務局 5人】

氏名	所属・役職
照屋 忠彦	受注スタッフ（（株）国建）
金川 達郎	受注スタッフ（（株）国建）
宮平 江美子	受注スタッフ（（株）国建）
新嘉喜 長健	受注スタッフ（（株）国建）
喜屋武 睦子	受注スタッフ（（株）紡）

議事内容

■体験プログラム

- ①必須体験プログラム以外の実施については、モニターの自由意思とする。
- ②必須体験プログラムは宿泊地でのプログラムから選んでもらうこととし、あるプログラムに偏ってしまう場合は、事務局で偏らないように変更をモニターに依頼する。
- ③天候等に左右される必須体験プログラムについては、室内で出来るプログラムを代替案としてモニターに選んでもらい、受け地側としては、どちらでも対応可能なように準備をしておく。（カヌーは潮の満干により可、不可が発生する。）

（天候で影響が出るプログラム）

東村	マングローブカヌー	シュノーケル	海人体験
名護市	マングローブ&シーカヤック	SUP	
宜野座村	松田鍾乳洞たんけん	シーカヤック	
金武町	マングローブ&カヌー		

※カヌーやトレッキングなどをする方へは、事前に濡れてもよい服装、虫などから肌を守るような服装を心がけるよう案内する。

- ④空き時間で何かやりたい場合は、優先的に今回の東海岸の体験プログラムから選んで

もらう。(他に要望があればその限りではない)

- ⑤必須体験プログラムの流れとして、プログラム実施場所でモニターとしてが予約したことを告げ、プログラムを体験する。この時にモニターからの金銭やり取りは発生しない。(事務局で精算)
- ⑥モニターが空き時間でプログラムを実施したい場合、観光推進協議会等がプログラムの問い合わせを受け業者へ連絡し予約を取る。この場合の代金はモニター自己負担とする。
- ⑦モニターの多くは帰京時間(那覇空港発 14:55 など)が早いため、3日目に必須体験プログラムが出来ない場合が見込まれる。そのため、モニターにはその旨の事前案内をしたうえで、事前予約をしてもらいたい。

■民泊

- ①民泊前の集合場所に、公園や直売所を利用する。
- ②東はヒルギ公園かサンライズひがしの2か所が集合場所とし、民家の場所によって選択する(1月23日はヒルギ公園)。
- ③宜野座は道の駅ぎのぎに集合し、宜野座村観光推進協議会が民家まで案内する。
- ④東は集合場所に民家の方も集め3者で集合し、その場で民家の方に引き継ぐ。
- ⑤名護は民家とモニターが直接わんさか大浦パークでと待ち合わせをする。
- ⑥民泊のチェックイン時間は17時～18時位が適当。
- ⑦民泊は各地域の独自のスタイルで実施する。宜野座、金武の場合は大人の民泊として飲食による交流を中心とした体験を実施する。
- ⑧民家さんへモニターの情報を周知する(酒の飲む・飲まない、タバコ喫・禁煙、食べ物・ペット等のアレルギー)

■アンケート追記訂正

- ①アンケートの他にモニターにレポートを書いてもらう。
- ②民泊でどんなことをしたのか内容記入(晩御飯、農業体験など)
- ③民泊の金額設定(妥当金額)について
- ④宿泊施設の設問で「風呂」追加
- ⑤ツアー中、購入した土産品(ご当地ものなど含む)や、購入した店名などについて記入してもらう。買ったお土産などの追加。
- ⑥来訪地で土産や飲食をしなかった理由も聞く
- ⑦受け入れ側でもアンケート
- ⑧体験プログラムの妥当金額について

■許田観光案内コーナー

- ①モニターと分かる様にして頂きたい。(モニターですと告げる)
- ②案内は、体験プログラムと通常の観光案内の両方行うとする。
- ③全モニターが必ず立ち寄る場所。

■ ツアーパンフレット

- ① 体験プログラムの金額は記載しない。
- ② プログラムの金額はモニターが都度電話して確認する。

③ モニターツアー行程

モニターは体験プログラムなど必須項目があり、行程表に沿って行動する。

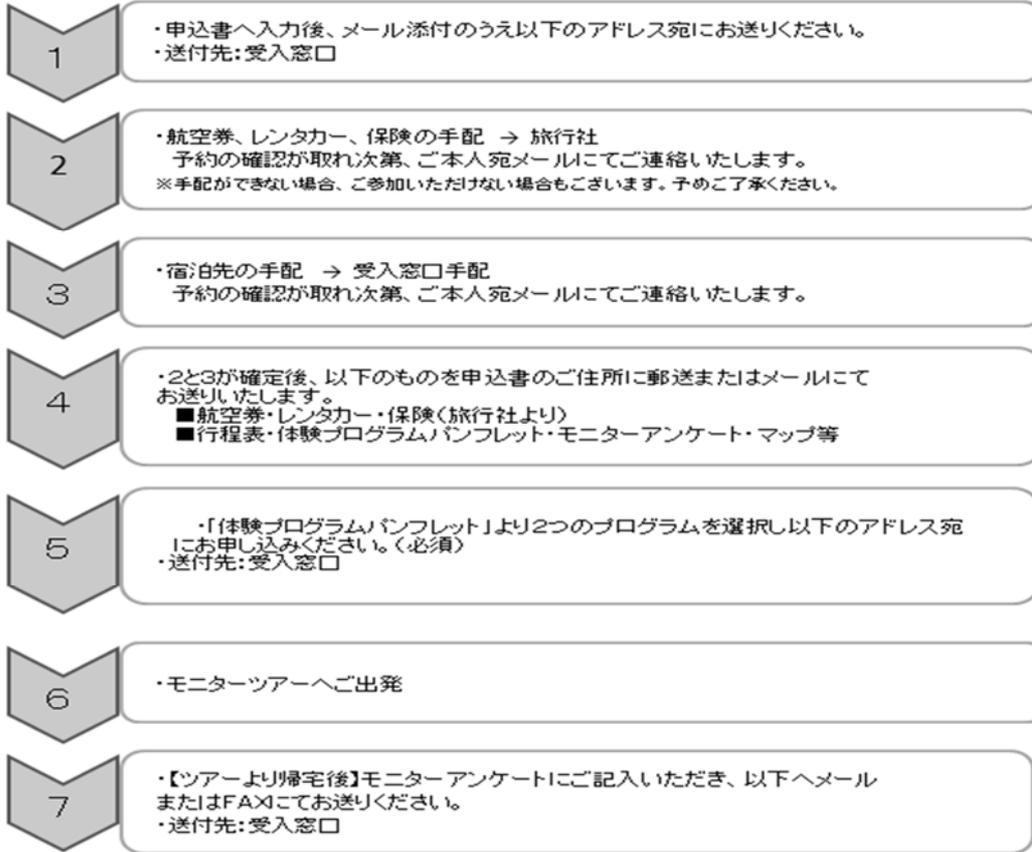
✿ 「やんばる観光事業」モニターツアー行程表(基本形) ✿		
旅行者氏名	〇〇 〇〇様 〇〇 〇〇 様	
日程	平成27年〇月〇〇日(〇)～〇月〇〇日(〇) 2泊3日	
航空便名	〇/〇〇ANA469便(羽田10:35発 那覇13:30着) 〇/〇〇ANA472便(那覇16:50発 羽田19:00着)	
宿泊先	①〇/〇〇 民間宿泊先 住所・電話番号 ②〇/〇〇 民泊宿泊先 住所・電話番号	
沖縄ツアーリストからの送付物	①航空券 ②レンタカーのクーポン券(送迎バス乗り場の案内付)	
✿ 行程表 ✿		
〇月〇〇日(〇)	〇月〇〇日(〇)	〇月〇〇日(〇)
<p>10:35 羽田発 13:30 那覇着</p> <p>🍴 めんそ〜れ🍴</p> <p>到着後、預けている荷物を受け取り、4番出口から外へ出る。横断歩道を渡り、レンタカー送迎バス乗り場へ行き係員へ声をかける(OTSレンタカー) ・送迎バスは、15分おきに出ます ※詳細は沖縄ツアーリストからの送付資料をご覧ください ・送迎バス→OTSレンタカーへ移動(渋滞時約30分) ・レンタカー手続き(約20分) ■レンタカーで北上～</p> <p>※高速道路利用で約1時間15分</p> <p>必須</p> <p>■名護市道の駅許田「観光案内所コーナー」へ立ち寄り 一級のお客様専用ご利用ください(アンケート項目あり) ガイド常駐09:30～17:30(詳細はチラシを参照しています)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>ガイドさんへモニターツアーであることをご申し出ください</p> </div> <p>■チェックイン ■夕食付</p> <p>■宿泊 民泊宿泊先</p>	<p>■朝食付 ■チェックアウト</p> <p>必須 体験プログラム I (民間宿泊地域のプログラムより選択)</p> <p>■宿泊 民泊宿泊先 ・各市町村担当者の指定する集合場所 で待ち合わせ</p> <p>■夕食は民泊先にて</p>	<p>■朝食は民泊先にて</p> <p>必須 体験プログラム II (民泊宿泊地域のプログラムより選択)</p> <div style="border: 1px dashed gray; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>出発時間は、受け入れ先との交流や昼食などによってそれぞれ異なります。飛行機のお時間をご確認のうえ、最後までお楽しみください。また、滞在中の過ごし方などについても初日にご利用される観光案内コーナーでお気軽にお尋ねください。</p> </div> <p>■レンタカー返却のため、南下～ ・高速利用(許田IC→名護地IC)…約1時間15分 ・58号線を利用される場合は時間帯によって渋滞が予想されるため、石川IC～高速道路利用をお勧めします</p> <p>※OTSレンタカー→空港(送迎バス)渋滞時約30分</p> <p>16:50 那覇発 19:00 羽田着</p> <p>***** お疲れさまでした ***** アンケートへ率直なご意見を願いますよう よろしくお願いたします</p>

- ① **必須** この必須マークは、2泊3日の中で必ず体験いただきますようお願いいたします。
- ② ツアー中の昼食は、自己負担となります。予めご了承ください。
- ③ 必須の体験プログラム I・II 以外は、別途費用がかかります。ご希望の方は直接、現地へお申込みください。
- ④ 名護市道の駅許田「やんばる観光案内コーナー」には、名物ガイドさんが常駐しています。訪ねてみたい場所・お勤めのお店やお土産・効率的なまわり方や移動時間など、お気軽にお尋ねください。「やんばるDrive本」や「やんばるの観光」の冊子もご利用いただき、アンケートへご感想をお寄せください。

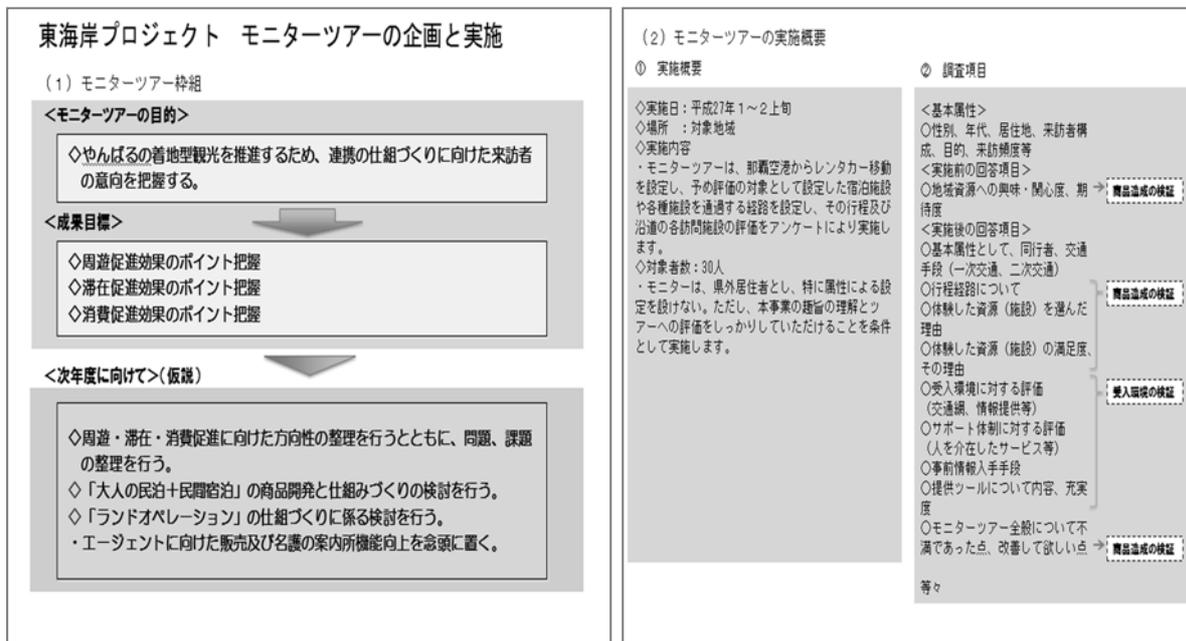
④モニターツアー実施の流れ

モニターとのツアー日程確定までやり取りを行い、ツアーを確定させた。

『やんばる観光事業モニターツアー』ご出発までの流れ

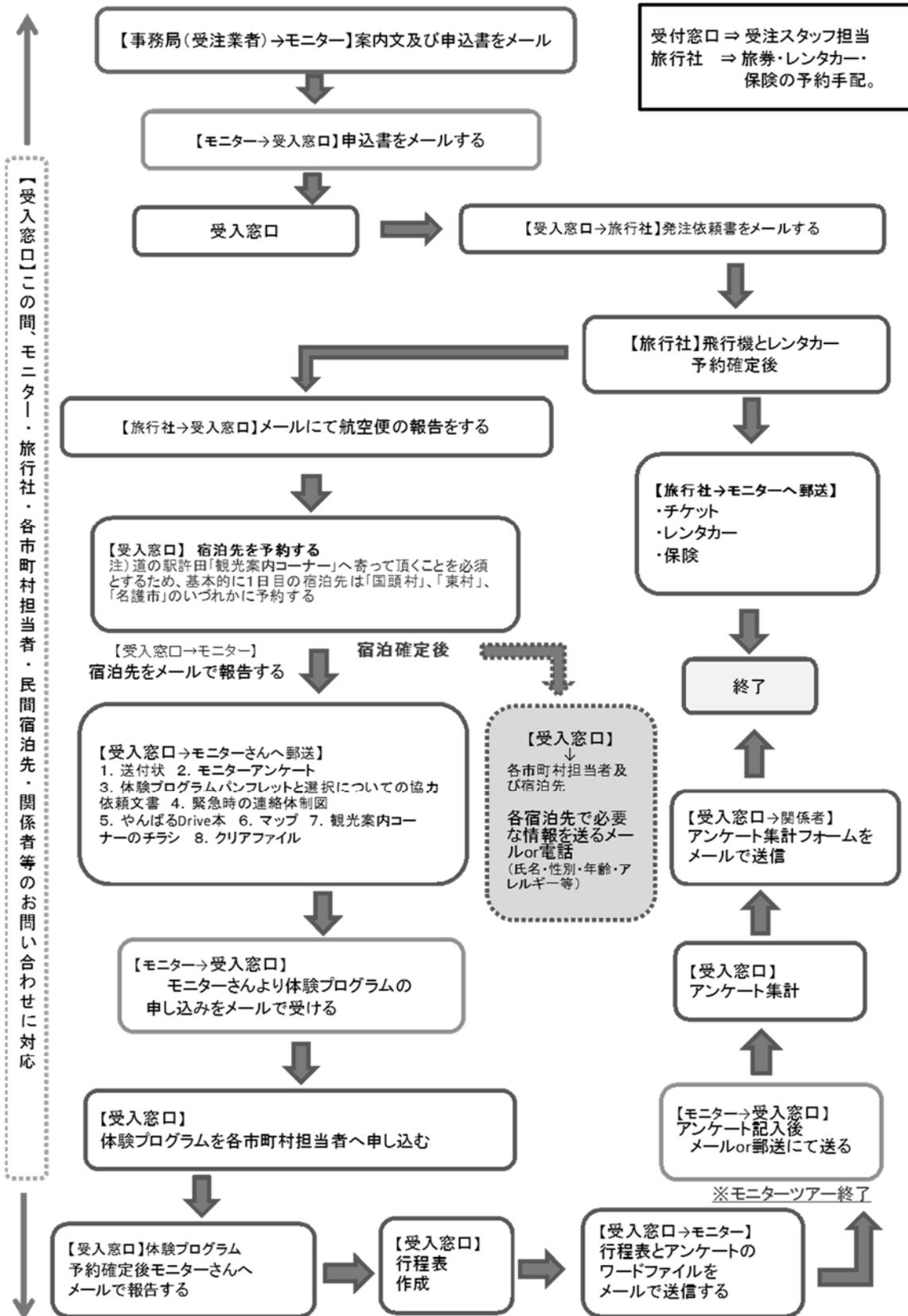


お問い合わせ先: 受入窓口



⑤モニター実施体制

今回のモニターツアーの手配については下記の流れに沿って実施した。

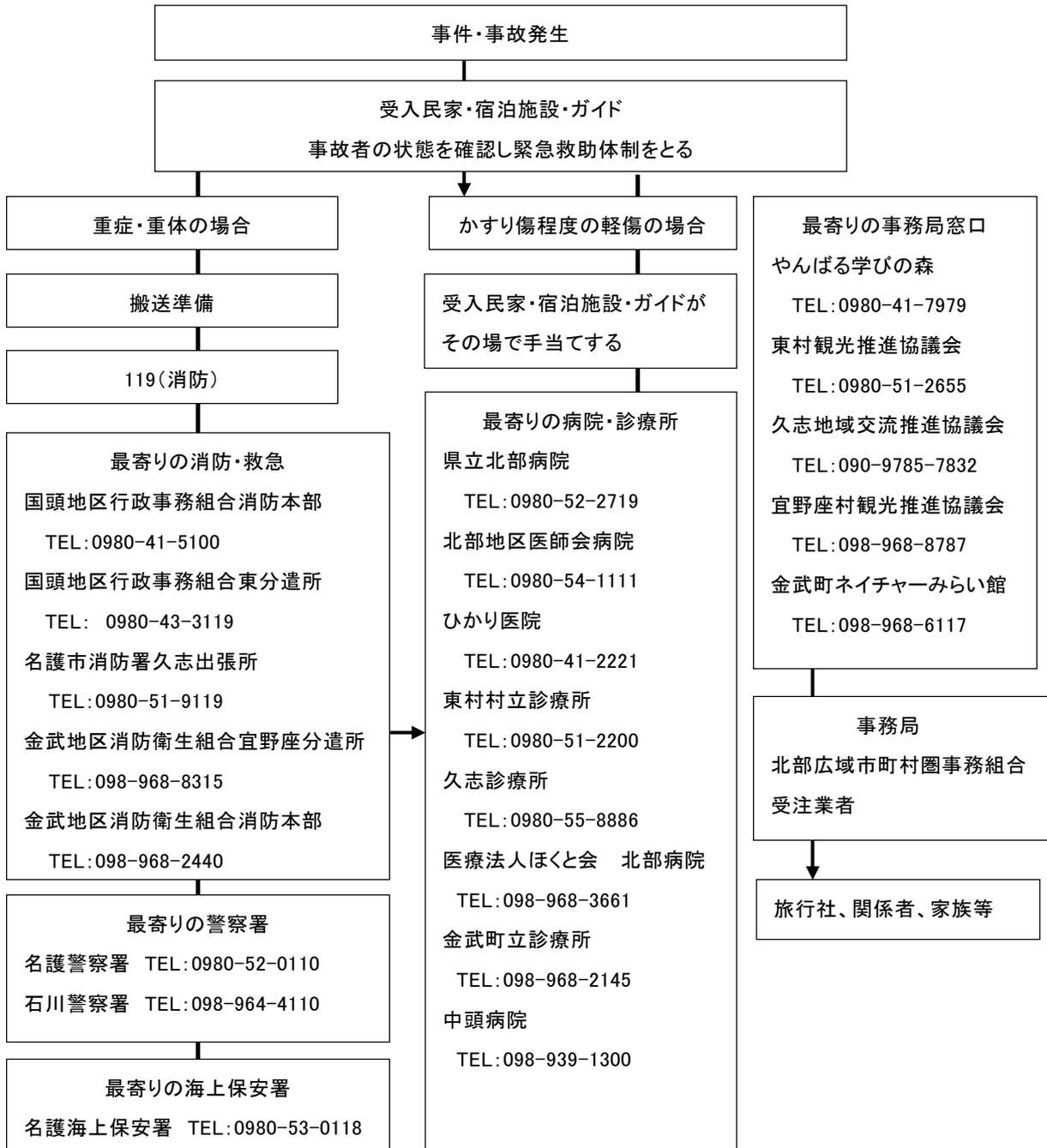


【受入窓口】この間、モニター・旅行社・各市町村担当者・民間宿泊先・関係者等のお問い合わせに対応

受付窓口 ⇒ 受注スタッフ担当
旅行社 ⇒ 旅券・レンタカー・
保険の予約手配。

⑥モニターツアー実施中の緊急連絡体制

事故発生時には以下のような緊急連絡体制にて対応します。



保険について ツアーご利用のお客様の万一の事故に備えて、障害保険と賠償責任保険に加入しています。保険加入料はツアー料金に含めて事務局で負担しています。内容は下記のとおりです。

1 傷害保険	
死亡・後遺障害	1,718 万円
入院保険金日額	5,000 円
通院保険金日額	3,000 円

2 賠償責任	5,000 万円
3 救援者費用	80 万円
4 携行品(自己負担 3,000 円)	15 万円

⑦モニターツアーパンフ

(概要)

目的	東海岸プロジェクト「大人の民泊」ツアーにて着地型観光体験プログラムをモニターで実施するためのパンフレット。
部数	50部 (モニター、関係者に配布)
内容	「着地型観光商品」のパンフレットとして、5市町村の観光商品を掲載。

**やんばる東海岸
モニターツアー**

北部広域市町村圏事務組合 平成26年度やんばる観光連携推進事業

シーカヤック・カヌーで
マングローブの森へ

国頭村
宜野座村
金武町
名護市
東村

国頭村
ヤンバルクイナを
探しに!

東村
沖縄の海で
シュノーケル体験

名護市
紅型体験

宜野座村
手作り漆喰
シーサー体験

金武町
島ぞりアート体験

やんばる東海岸について

沖縄の北部地域は、「やんばる」と称され、沖縄ならではの自然環境や歴史文化が残る地域です。

今回のモニターツアーの対象となる「やんばる東海岸」とは、沖縄本島北部の国頭村、東村、名護市、宜野座村、金武町の太平洋側に面する地域を指します。

これまで、やんばるの西海岸地域は沖縄海洋博覧会（1975）の開催を契機として観光リゾート地として注目を浴び、国道58号沿いを中心に大規模な観光・リゾート施設が立地し多くの観光客が訪れています。



一方、やんばるの東海岸（国頭村～金武町）は豊かな自然環境や文化資源を持ちながら西海岸に比較して居住人口も少なく、これまで観光地としてはあまり知られていません。それゆえに、やんばるのなかでも沖縄らしさが色濃く残る地域であります。

近年、自然環境を活かしたエコツーリズムや修学旅行による農家民泊など観光振興の取組みがはじまり地域の活性化のきっかけとして期待されています。

そこで今回はやんばる東海岸の民泊にスポットを当て、修学旅行だけでなく一般の大人の観光地としての可能性を探り、今後の地域活性化の契機となるようモニターツアーを行います。

モニターツアーでは民泊をとおして、ぜひやんばる東海岸ならではの暮らし、文化にふれ、また海、山、川が織りなすダイナミックな自然を感じ、東海岸にしかない魅力を感じてもらいたいと考えております。



東海岸
地域



田と水とやすらぎの里、くにながみ

国頭村

kunigami-Village

国頭村環境教育センターやんばる学びの森

沖縄本島最北端に位置する国頭村は、ユニークな歴史、生物多様性豊かな場所として世界自然遺産の候補にもなるやんばるエリアを代表するスポットの一つです。ヤンバルクイナやノグチグサといった地球上でここだけにしか見られない固有種も数多く生息しています。



やんばる学びの森 (学びのゾーン&遊びのゾーン)

遊び、学び、気づき、自然を五感で感じよう。

森の仲間たち

やんばるの森が育む、個性豊かな仲間たち



ヤンバルクイナ ノグチグサ ヤンバルクイナ イシカワガエル シュウキョウイノシシ



命脈の湯

鬼太郎ハウス



リバーソングコース

体験メニュー内容

カヌー、自然散策、バードウォッチング・・・
豊かな国頭の自然を体験してください

※-アクティブ系のプログラムです



エリア

安波

ナイトハイク&星空観察

夜の森を満喫しよう

生き物の声、風の音、ムルプシ(群蝶)、新月の世帯へ出発!

所要時間 2日限定
※2日限定の体験プログラムです。お申し込みください。

お問い合わせ 沖縄県国頭村安波1301-7
<http://www.alabi.jp/>
※平日 年中無休 (随時予約あり)

0980-41-7979

営業時間 9:00-18:00



エリア

安波

モーニングウォーク

朝の目覚めに会いに行こう

鳥たちの囀りを聞きながら、気持ちよく森を散歩してみませんか?

所要時間 2日限定
※2日限定の体験プログラムです。お申し込みください。

お問い合わせ 沖縄県国頭村安波1301-7
<http://www.alabi.jp/>
※平日 年中無休 (随時予約あり)

0980-41-7979

営業時間 9:00-18:00



エリア

安波~危州

ちよこつとバードウォッチング

ヤンバルクイナを照しに行こう!

軍での採用になります。小さいお子様へご年配の方でも安心!

所要時間 2日限定
※2日限定の体験プログラムです。お申し込みください。

お問い合わせ 沖縄県国頭村安波1301-7
<http://www.alabi.jp/>
※平日 年中無休 (随時予約あり)

0980-41-7979

営業時間 9:00-18:00



エリア

安波

ウインターカヌー

川上流部のジャングルを目指そう!

生き物達の声に耳を傾け、ゆったりと自然を感じよう!

所要時間 2日限定
※2日限定の体験プログラムです。お申し込みください。

お問い合わせ 沖縄県国頭村安波1301-7
<http://www.alabi.jp/>
※平日 年中無休 (随時予約あり)

0980-41-7979

営業時間 9:00-18:00



エリア

安波

ガイドウォーク

亜熱帯の森を堪能しよう!

インタープリター(自然解説員)と一緒に、実際に森を歩いてみよう!

所要時間 2日限定
※2日限定の体験プログラムです。お申し込みください。

お問い合わせ 沖縄県国頭村安波1301-7
<http://www.alabi.jp/>
※平日 年中無休 (随時予約あり)

0980-41-7979

営業時間 9:00-18:00



エリア

安波

リバーソングガイドウォーク

沢沿いのコースでリフレッシュ

川のせせらぎ、鳥の心惹きいリズムが、癒しを与えてくれます。

所要時間 2日限定
※2日限定の体験プログラムです。お申し込みください。

お問い合わせ 沖縄県国頭村安波1301-7
<http://www.alabi.jp/>
※平日 年中無休 (随時予約あり)

0980-41-7979

営業時間 9:00-18:00

東海岸
地域



花と水とパインの村

東村

Higashi-Village

豊かな自然資源を活用した「エコツーリズム」、本格的な釣りや、河川の広域的な娯楽が体験できる「ブルーツーリズム」、本物の農業や暮らしが体験できる「グリーンツーリズム」などの「リゾート」とは違う魅力が味わえる東村。



パインアップル

東村産パインアップルの生産量が日本一。一筋に広がるパイン畑で収穫体験もできる。

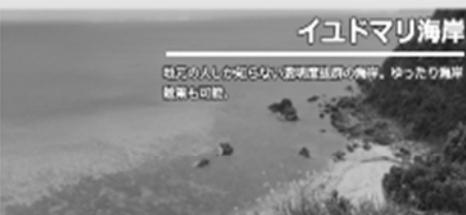
ノグチヅラ

高気圧帯に北の中心部を越えて南下し、今夏は全国的に少雨傾向のなかで、農家の営みに大きな影響を与えている。



ウッパマ海岸

広い海岸線を利用してキャンプや海水浴が楽しめる。遠浅の海のため干潮時にはイノー(遊歩)も楽しめる。



イユドマリ海岸

地元の人しか知らない感動的な海岸。ゆったりとした風景も堪能。



福地ダム

沖繩県最大のダム。沖村には手付かずのやんばるの景観が広がる。資料館も併設しているので沖村の水事情をチェック。



コーステアリング

イユドマリ海岸から続く海岸線。大きな石を越えてビーチへ。

体験メニュー内容

海入、シュノーケル、木工、紅型染め、漆喰シーサー・・・

個性的なプログラムが沢山あります。東村の自然を体験してください。

※アクティブ系のプログラムです

エリア 慶佐次

慶佐次川のマングロープ林をカヌーで遊覧
慶佐次川のマングロープの中へカヌーで入り、生き物の生態でマングロープを観察します。

所要時間：120分～120分 定価150円～180円

マングロープカヌー体験

所要時間：120分～120分 定価150円～180円

エリア 宮城

手付かずの自然の海でシュノーケリング
水中メガネ、シュノーケル(鼻を飲む装置)フエットスーツ、フィン(足ヒレ)を装着した状態で、水中を散策します。

所要時間：～60分

シュノーケル体験

所要時間：～60分

お問い合わせ 東村早良471-24 東村観光振興協議会 <http://www.higashi-kankou.jp> 受付日 土・日・祝

0980-51-2655 (土日祝の受付 0980-51-2433) 営業時間 9:30～17:30

お問い合わせ 東村早良471-24 東村観光振興協議会 <http://www.higashi-kankou.jp> 受付日 土・日・祝

0980-51-2655 (土日祝の受付 0980-51-2433) 営業時間 9:30～17:30

エリア 高江

世界に一つしかない作品を作り上げよう
紅型の柄はヤンパルクイナやシーサー、ハイビスカス等があり、他に東村をモチーフに作られたパインとつつしの柄やヒルギの柄など種類も豊富。トートバッグやコースターを染めていきます。

所要時間：60分～150分

紅型染め体験

所要時間：60分～150分

エリア 平良

漆喰でシーサーを作り、地球儀を飾った紙片で仕上げます
赤瓦と漆喰は沖縄の伝統的な装飾に使われているもので、この材料で家の守り神のシーサーを作ります。

所要時間：～60分

漆喰シーサー作り体験

所要時間：～60分

お問い合わせ 東村早良471-24 東村観光振興協議会 <http://www.higashi-kankou.jp> 受付日 土・日・祝

0980-51-2655 (土日祝の受付 0980-51-2433) 営業時間 9:30～17:30

お問い合わせ 東村早良471-24 東村観光振興協議会 <http://www.higashi-kankou.jp> 受付日 土・日・祝

0980-51-2655 (土日祝の受付 0980-51-2433) 営業時間 9:30～17:30

エリア 川田

地元漁師が案内する船釣り体験
船に乗って魚(イシモチ)を釣って捌いて食べる所まで体験する、并べ魚体験です。

所要時間：～180分

海入体験

所要時間：～180分

エリア 有銘・宮城

木工作り体験
やんばる材を使って木工にふれよう
木工作を通じて、木材の良さを、工作の楽しさを体験。パードコールなどを作ります。

所要時間：～60分

木工作り体験

所要時間：～60分

お問い合わせ 東村早良471-24 東村観光振興協議会 <http://www.higashi-kankou.jp> 受付日 土・日・祝

0980-51-2655 (土日祝の受付 0980-51-2433) 営業時間 9:30～17:30

お問い合わせ 東村早良471-24 東村観光振興協議会 <http://www.higashi-kankou.jp> 受付日 土・日・祝

0980-51-2655 (土日祝の受付 0980-51-2433) 営業時間 9:30～17:30